

江 文 学



同窓会員の皆さんへ

同窓会理事長

渡辺達好

本年も編集委員各位の並々な御努力により、新刊第二号澱江が出来ました。

御承知の如く、母校の発展も日に月に進んで参っており、御同慶の至りに堪えません。

本年の入学志願者は、全国各大学共異状の数に上りましたが、母校も昨年の約二割増の一万三千余名という志願者でした。ために競争激甚で粒揃いの優秀学生の入学許可となり非常に喜ばしき次第であります。

全国各地で御活躍の会員の皆様も、在学当時の母校の状況が如何に変貌しているか、卒業以来御来訪になつていない各位には、恐らくびつくりされること、思います。古い卒業生の会員には、それぞれ大学進学への御息も多数おられること、思いますが、第二世として母校の学窓へ御入学を御奨め下さるよう願つてやみません。今回の澱江の内容も、編集委員の多彩な企画のもとに工夫編集されています。種々母校のかぐはしい香りや、同窓会の発展の状況を、数多く御知らせ出来たこと、思っております。

なお昨年発行予定の同窓会名簿も、大変遅くなりましたが、実は各位の住所や電話番号等の変更も非常に多く、より正確なものを作るためかなり編集に難渋を極めました。漸く名簿原稿の大半も終了致しましたので近く刊行、御手許に御届け出来るものと思っております。

新名簿の配布は申込制になっておりますので出来るだけ早い目に御申込み下さい。詳細は本澱江にも記載してありますので御了承下さい。では同窓会々員各位の御多幸と御健康を御祈り致します。

42、4、10、記

澱江

第3号

目次

「澱江」編集にあたって……………渡辺達好	2
一万同窓への報告と訴え……………藤田敬三	3
同窓会本部だより	
会則の改訂と40年度決算、41年度予算	4
あの頃のこと 開花期……………	6
同窓会支部だより……………	10
学生生活を語る・座談会……………	17
クラブ活動の現況―体育会―	
随想 奥村日出男 山上善彦 荒牧博之……………	29
北から南から―同窓生短信集……………	32
編集後記……………	38
同窓会総会から……………	13
入学おめでとう……………	25
学歌 逍遙歌……………	39

1万同窓への報告と訴え

学 長 藤 田 敬 三

お蔭で、本学も年と共に内容外観の充実を見ることが出来、全学八千に及ぶ教職員、学生が一応日本的にも大学の名にふさわしい学園の中で、研究に教学に毎日を愉快に過ごさせて頂いておることは感謝に堪えません。この機会に昨年「澱江」第2号にご報告させていただいた後の主な出来事について一言させて頂きますと次の通りです。

まず、大学院（経済学部、経済学専攻）の修士コース2年目の入学生は昨年同様約20名許りの志願者の中から選ばれた8名であり、これで学問の府としての実質を備えた本学が誕生し、前途有為な教授を自からの手で養成することも出来、同時に外部からも誘引し易くなったのは大なき収穫だと思います。次に施設の面では茨木市の福井町（万国博用地の東方数キロの丘陵地）に購入した約14万平方メートルの校地の一部を造成して運動場に充て、今年中に予定計画中の体育館を竣工させたいと準備中であります。勿論、これらの施設並びにこれに見合った教職員の充実、専門図書購入等のために本法人の財政的負担は急膨張を来し、やがて学費引上げ等の必要も生じ、近来急激に問題化しつつある私学経営上の難点から全く自由であるとはいえないし、手放しの楽観は許されませんが、本学の学費は尚大都市の私大中では最も良心的な低水準にあり、しかも一面、教職員の給与、教職員の急増による学生へのサービス等においては関西での第一線を行く意気込みをもって全学協力、経営の近代化と教学内容の向上に努めており、その成果は入学志願者の質、量両面における急上昇や就職面における伸長となって近来漸く内外に認められつつある実情は同慶の至りであります。

しかし、当面の大学、特に私立大学の教育はご承知の如く、まさに一大転換期にあり、思想、学術における全般の急激な動きに沿った適切な対応に誤りなきことを期することは至難の事業であります。幸いに1万同窓諸兄のご支援によって近く3学部制への前進と、さらに安定した経営を実現してこの異色ある大阪経大の完成に邁進したいと、日夜念願しております。とはいえ、真に次代の担い手たるにふさわしい若人を科学的に厳しくまた人間的に温かく、かつ勇気をもって世話して行くことは容易な業ではありません。同窓の諸兄もこの意味において、さらに一段と母校への関心を高めて頂き、総会への出席などもさらに熱を加えて頂きたく懇望する次第であります。日本私学のマスプロ教育のエスカレーションは、このままでは当然、大学の崩壊に導くものでありますから、国家社会の責任追求は勿論のことながら、運命共同体たるわれわれが先ず一団となって民主化大学の健全なる発展に全力を尽さなくてはと殊更に諸兄の母校愛に訴える次第であります。

同窓会本部だより

〃 盛会だった昭和41年度同窓会総会 〃

同窓会会則の一部を改訂

いまや同窓生の数は一万人を遙かに越え、広く社会の各分野で活躍中だが、この同窓生同士の親睦と融和をはかり、学校と同窓生を結ぶ唯一の機関として同窓会本部活動も一段と活発化しているが、本年度は会則も一部改訂、41年度の総会もとどろく盛況裡に幕を閉じた、以下はこの一年の報告である。

同窓会の唯一の推進母体である常任理事会及び理事会は次の通り開催されました。

一、常任理事会

- 昭和四〇・一一・四（パレス）
（募金の件）
（「澱江」第二号の発行）
（学校法人の候補者の推せん）
評議員①広田 実氏
③鈴木 権平氏
⑦比企 重氏
⑩蔭下 嘉典氏
（数字は卒業回数）
理事③渡辺 達好氏
③世良 鍊次氏
監事③磯野 斉氏
同窓会事務組織の改正
従来の編集・総務・会計・監事に企画を新に加える。
四〇・一一・五（K）
（理事会開催の日取り決定）
（昭和四一年度予算案審議）
（学校法人役員候補者確認）
- 四〇・一一・二五（パレス）
（学校法人の役員候補者の選任）
（昭和四一年度予算案の審議）
（昭和四〇年度総会の件）
（同窓会役員の選任）
同窓会報告事項
a 澱江発行
b 同窓会名簿作成
- 四〇・一一・二五（パレス）
（学校法人の役員候補者の選任）
（昭和四一年度予算案の審議）
（昭和四〇年度総会の件）
（同窓会役員の選任）
同窓会報告事項
a 澱江発行
b 同窓会名簿作成

二、理事会

- 昭和四〇年度総会開催打合
四一・八・一二（経大ホール）
（同窓会名簿の編集）
（常任理事会開催の議事録の作成）
（理事会開催予定）
（同窓会名簿編集について）
四一・一〇・三（経大ホール）
（昭和四一年度総会の件）
四一・一〇・二八（経大ホール）
（昭和四一年度総会行事の再検討）
四一・一一・八（経大ホール）
総会の準備打合
- 第一号議案 昭和四一年度収支決算案承認の件
第二号議案 昭和四二年予算案承認の件
第三号議案 同窓会規約の改正
（田藤田学長挨拶）
（理事長挨拶）
（来賓祝辞）
（自治会・学友会委員長挨拶）
（学歌斉唱）
（閉会の辞）
（ビールパーティ）
三、支部長会（教授を御招待して懇親会）
なお編集部においては、澱江、名簿の編集打合せのため、本当に御多用の処を参集賜り、十回以上の編集

部会を開催致しました。
次に同窓会としての最大行事である定時総会が昭和四十一年十一月二十日（日）に去る四月新装完成なった学生会館ホールにおいて、その完成披露を兼ねて盛大に開催、久方ぶりに藤田学長先生はじめ恩師、同窓生各位一堂に相会して、決算案其他重要議案も滞りなく承認可決されました。引続いて午後よりは学生会館大食堂において恒例のビールパーティの宴が広げられ、夫々お互に日金の金ボタンの制服の頃の思出話に乾杯の花を咲かせました。また来る年も元気にこの学舎に再び相まみえることを約して、東に西に別れの情を惜しんだのでありました。また北区東仙閣における支部長会（各教授を御招待しての懇親会）の夕には特に公私共御多用の折まけて御出席下さった菅野和太郎先生を囲み久方ぶりに先生より有益なお話しを、また学長先生はじめ諸先生方よりも種々御高説を拝聴させて頂きました。以上の如きプログラムにて本総会も有意義に盛況裡に終了致しました。尚毎年のことですが、本総会を開催するに当り、本学に奉職されておられる編集部の玉岡さん（12回卒）、又本学生生活協同組合に奉職の辰本さん（25回卒）、大門さん（29回卒）の諸氏並に各事務局の方々の一方ならぬ御支援と御協力に對しまして同窓会役員一同重ねて衷心より謝意を表する次第であります。
（参考）
また同窓会運営の規約も昭和二十九年十月一日施行以来一度も改訂されませんでした。今回会員数の増加に伴い左頁のように一部改訂が行われました。
（山上記）

昭和41年度決算書

自昭和40年10月1日 至昭和41年9月30日

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,937,652	特別基金勘定へ振替	4,666,878
会費収入	5,781,500	総会費	458,484
名簿収入	81,800	役員会費	314,829
雑収入	493,965	支部費	291,251
募金勘定より振替	1,006,000	学園対策費	354,710
		編集費	745,240
		事務費	337,118
		慶弔費	0
		予備費	0
		次期繰越	2,132,407
計	9,300,917	計	9,300,917

昭和42年度予算書

自昭和41年10月1日 至昭和42年9月30日

収入		支出	
会費収入	5,800,000	総会費	600,000
雑収入	600,000	役員会費	450,000
名簿収入	400,000	支部費	500,000
前期繰越金	2,132,407	学園対策費	800,000
募金勘定より振替		編集費	2,600,000
		事務費	400,000
		慶弔費	50,000
		特別基金	2,000,000
		剰余金	
		予備費	1,532,407
合計	8,932,407	合計	8,932,407

大阪経済大学同窓会々則

（太字は改正点）

第1章 総則

- 第1条 本会は大阪経済大学同窓会と称す。
第2条 本会は会員相互の融和親睦並に社会的地位の向上をはかると共に母校の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会の前条の目的を達するため下記の事業を行う。
1. 会員相互の親睦をはかるに必要な事業
2. 学術の研究、講演会等の開催
3. その他必要な事業
第4条 本会は下記の会員に依って組織する。
1. 正会員 母校卒業生
2. 特別会員 母校教職員
旧教職員及び本会に特別の関係あると認め理事会の推薦したもの
第5条 本会は本部を大阪経済大学内に置く。

第2章 役員及役員会

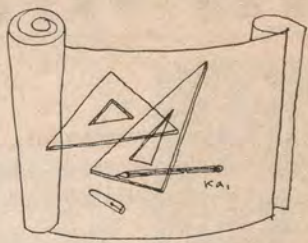
- 第6条 理事長 1名
事務局長 1名
常任理事 20名以内
理事 各回3名
監事 3名
第7条 理事は総会に於て会員中より選出する。
第8条 常任理事及び監事は理事の中より選出する。
第9条 理事長及び事務局長は常任理事の中より選出する。
第10条 役員の任期は2年とし再選を妨げない。
但し任期満了後と雖も次期の役員の就任するまで引き続きその職務を行う。
第11条 役員中欠員を生じた場合は常任理事会の決議により補充することが出来る。
但し任期は前任者の残余期間とする。
第12条 理事長は本会を代表する。
第13条 理事は理事会を構成し重要な会務につき協議する。
第14条 常任理事は常任理事会を構成し会務の運営に当る。
第15条 事務局長は理事長を補佐し会務を掌理する。
第16条 監事は会務を監査する。監事は理事会、常任理事会に出席して協議にあずかる。
第17条 常任理事会は会務を円滑ならしむるために次の部を置く。

1. 総務部 2. 企画部 3. 編集部 4. 会計部

なお、第3章総会（18条19条）、第4章会計（20条、21条22条）第5章庶務（23条、24条、25条、26条、27条、28条、29条）については改正がありませんので略します。

第6章 学校法人の評議員

- 第30条 学校法人の同窓会評議員の候補者は理事会に於て推薦する。



あのことろのこと・2

開 花 期

▽…この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。……
 △……この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の……
 △……波乱、幾多の変せんを経て、いまや大阪経済大阪として、……
 △……揺ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪……
 △……華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには……
 △……大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪……
 △……経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦……
 △……難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ、はた……
 △……また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ……
 △……卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード……
 △……ド―そのエピソードを綴り合せたのが、このページである△

勉学に運動に充実と躍進

(四回～六回)

楽しかった三年

「さて、僕等の項の回顧をしなればならないのだが、前章の『揺籃期』に続いて、何と名付くべきだろうか。」
 「僕はこの時代をあえて『開花期』と名付けたい。とにかく、言葉を換えていえば、『繁栄期』とか、『発展期』とか、いろいろいい方はあると思うのだが、すべてに着々と結果を見たのはこの時期を措いてないであろう。だから、前章を受けて、あでやかにいつて見た。」
 「それは結構だが、『開花期』はむしろ、我々よりすぐあとの、女子教育時代を連想するね。」(笑)
 「冗談はさて置いて、まづそうして置こう。」
 「ところで、僕等には文字通り、楽しい時代ではあった。青春を過すには処を得ていた三年間だった。みんないい奴だった。」
 「ほんとうだ。良き友を得るには事欠かなかったよ。第一、学校へ行くことがちっとも苦にならなかったし、先生に会うことさえ楽しかった。もっとも、今から思えば、よき時代だったかも知れないが、プラスアルファがあったね。」
 「それは、三回生までの諸兄が築いてくれたものだと思うよ。いわゆる陣痛の苦しみの後に、僕等は人間関係の尊さを受継いだのだ。どうかして、立派な学校に自分達で育て上げたいという熱意だ。それがやがて、伝統になった。」
 「前号にも出ていたように、米津先生を先頭に、校庭の草刈り、植木の移植、整地、ほど学校を整備すると同時に、自分達自身が整備されていたんだろう。」
 「それにもう一つ。上級生がとて

互いに魂のふれ合いを感じたね。」
 「それでいて、先生は外国語の勉強をやかましくいわれた。原書を読めとよく口癖のようにいわれた。僕は卒業してから、今更に先生の言葉を痛感したものだ。」
 「それにもう一つ忘れられない先生の言葉がある。『鶏口となるも、牛後となる勿れ。』先生は青白きインテリは嫌われた。何処えほうり出されても、独力で人生を歩いて行ける人間を造ることに努められた。昭和イズムであり、強力なバックボーンとなった。」
 「その他、諸先生の感化は随分多かったようだが、黒正先生の経済地理に次いで、菅野先生の日本商業史、藤田先生の工業政策など楽しかった。楽しかったといえば誤弊があるが、云うなれば脱線の楽しさだろう。それに英語では、山村先生の英語の最初の時間、ハーディの『幻想を追う女』の一節を覚えていた。『彼は彼女の腰を抱いた。』」(笑)
 「久野先生のドイツ語と哲学は残念ながら受けてないのだが、情熱的な授業は定評があったね。」
 「僕はフランス語の津田先生を忘れられない。当時、先生は岩波文庫に次々と訳本を与えられていて、まさに新鋭という言葉がピッタリしていた。授業も楽しく、いうなれば『五月の匂い』がしたね。僕はフランス語とともにエスプリを教えていたのだと思うね。」
 「菊田先生、藤原先生など、教室以外の感化があまりにも大きすぎる。」
 「諸先生については、枚挙にいとまないといつていいのだが、前号でかなり詳しくかかれてるし、六回の柏木君も寸評をよせているか

ら、はぶかせてもらおう。」
 「僕は冒頭に『開花期』だと主張したこともあって、言葉の責任を感じているんだが、学校自体は未だその言葉とうらはらだったな。」
 「ブル建設予定地が三年間予定地で終ってしまった。」(笑)
 「全くだ。およそ花なんかなかったぞ。」(笑)
 「ところが学生生活は花ざかり。その二、三を語っていたらこう。」
エスケープの楽しさ
 「僕は第一にあげたいもの、当時誰もが味わえて、一寸楽しかったのがエスケープだろう。スリルがあって、妙な優越感があって。リベラリズムを謳歌したつもりでいたんだから、他愛がなかった。」
 「エスケープ先は、どこだったろう天六かな、淡路かな。」
 「その辺だったろうな。とにかく天六の映画館で、早朝興業十銭というのがあった。いい映画があったぞ。蒼氓、土、ペペル・モコ、など、今考えれば全く安く、青春にふさわしいものだった。」
 「十銭の映画を見て、五銭のコーヒを飲み、五銭のトーストを噛る。その上、のんびりと人生を語り合えたんだから、まさに王侯の生活をしのいでいた。」(笑)
 「そうだ、こんな時もあったよ。学校附近の友人の下宿。授業をサポートしても、人生を論じ合う方が意義あると考えていた。また、たまらなく楽しかった。」
 「映画の話が出たが、本のことも忘れてはならない座右の師友だったではないか。今も続いている『岩波文庫』。当時星一つが二十銭。現在と違って、唯一の古典と学術の安価



炎天下の軍事教練はつらかったがこれもなつかしい思い出

な供給源となっていたな。」
 「僕等は古本漁りを一種のレザ―に興味みたくにしていたが、当時発禁本などを探し出しては書架に貯えることも自慢だった。ハンカのように、一度はマルクス経済学を喋ってみたのもその頃だろう。」
 「しかし、戦時色が強くなるとともに、マルクス主義経済学は地下にもぐり、かわって全体主義万能の時代が訪れる。建林先生のアウトルキ―、藤原先生のゴットル、みんな耳なつかしい言葉だよ。」
授業料年三十円也
 「ついでに物価について、二、三引合いに出してみよう。授業料が年三十円、淡路の下宿代が月六円。雑誌『改造』は五十銭。」
 「そうそう、学校の食堂も安かった。十銭のキツネうどんに六銭のめし。僕はこいつが多かったが、ガサガサかき込んで教室に飛込んだものだ。」
 「それに忘れられないものに平安食堂、ミノル食堂、僕等のさやかな『アルト・ハイドルベルヒ』。」
 「あの頃、学校へは新大阪の上新庄駅を降りてから、小川沿いの砂ぼこりの道を歩くしかなかったが、あの長い道を、先生方とも談笑してゆきかえりしたものだ。春うららかな日なんか、小川のせせらぎを見て、雲雀の声を空に聞きながら、田んぼの青臭い匂いにつつまれての登校なんて、今もって忘れられない。」
 「そうだ、全く一幅の画だ。学校内は御承知の通り、整備は不完全だし、樹木は決して多いとはいえないかったけれど、周囲には緑が存分にあった。瑞光寺など、ひなびてとてもよかった。僕等は青草に転がって、青空を仰ぎながら、将来を語り合っていたよ。ガールフレンドなんて、高嶺の花だったけれど、そんな話がなかったように思う。」
 「近頃の学生諸君はアルバイトと切離して考えられないくらいに、学生生活には不可欠になっているが、その点患れていたといえるだろう。物価が安かったことも大きな要因だろうが、それにもましていわれるレザ―が盛んでなかったことだろう。先に話に出たように、五十銭握っておれば半日の行楽を楽しんでいたけれど、古本を買って来て、下宿の二階に寝転がってあれば結構レザ―になった。」
 「第一アルバイトという言葉はなかったことは勿論だが、一部『苦学生』という言葉はあった。現在でもそう呼ぶにふさわしい学生諸君もおられるだろうが、たいがい根本

的に意味が違ふようだね。近頃のアルバイトには悲壮感が全く見られない。」(笑)

「こう見て来ると僕等の学生時代は全く結構づくめの感があるが、実際はそうでもなかったよ。経済的な逼迫は今も変りはないだろうが、さらに強く我々を支配していたものは戦争だろうね。」

戦争の荒波は容赦なく

「有名な盧溝橋の一発は昭和十二年だから、丁度六回生を迎えてすぐだったわけだ。」

「いよいよ日本に暗雲が漂い始めたわけだ。僕等の目の上には徴兵検査がコブのようにぶらさがった。」(笑)

「国のためという青年の気概と、祖国の礎という没我的精神との奇妙な交錯となって、僕等の脳裡から消

えなかった。」

「それでも昭和学園には自由があったな。その頃として寧ろ不思議な考え方だったけれど。先生方が自由潤達だったことは、僕は恵れていたといっている。祖国の将来について、近視眼的な視野にならないよう教えて下さった。ほんとうの祖国愛は、そこから出発するはずだったのだ。」

「戦争へ、戦争へと、滔々たる流れには、とうてい竿さすことは出来なかったであろうが。」

「軍事教練の時間が増えたのも昭和十四、五年頃だろう。配属将校の先生方も次々と、立派な武人をお迎えした。威厳のあった藤原大佐、慈愛あふれた佐藤大佐。お二人共、厳格の中に、人間味ゆたかな、ほんとうの軍人を見たように思う。」

「その上、教官には丹羽少佐、若

原大尉、渡辺軍曹等、それぞれ個性あふれた先生がおられた。共通していえることは、僕等を学生として、一人の人格を認めて下さったことだ。」

「そうそう、僕のクラスに予備少尉がいてね。教官が軍曹で、学生が少尉という全くあべこべの珍事があったね。渡辺さんもやりずらいことだったろう。万事放免だったと覚えている。」

「昭和十五年頃から、東京で学生の閱兵式が行われた。校旗を先頭に、五、六人の守護兵で、陛下の前を分列する。正に感激だったね。それがやがて、学徒出陣につながるんだ。」

「その頃からボツボツ、クラス中から応召兵を出したね。赤標を先頭に、みんな日の丸の小旗を振りながら、上新庄駅まで、愛国行進曲を大



第7回卒業生アルバムから

- お話おきいた人
- 第四回 中村 源氏
 - 第五回 岸本 健蔵氏
 - 第六回 伊藤音七郎氏
 - 第七回 比企 重氏

声に歌って送り出したこともたびたびあったよ。」

「我々四十八回生あたりが、一番戦死者を多く出しているだろう。また同時代の者で、銃を執らなかったものは皆無ではないだろうか。」

「軍事教練での想い出は、何といっても、信太山の秋季演習、城東練兵場の射撃訓練。樫原神宮迄の往復行軍もつらかった。しかし何れも、後の軍隊生活では大変役立っている。」

「中島さんのラジオ体操も想い出の一つだろう。」(笑)

「黒正先生以下、校庭で、中島さんの号令一下、身体を動かすリズム感、今考えるとさわやかだったと思う。」

「全校一致で想い出すことは断髪令だね。」

「当時の世相からいえば、不思議ではなかったかも知れないが、他校に先んじてこの命令を受けた時は度魂を抜かれたな。」

「殆んどは従ったが、若干のレヂスタンスはあった。最後まで抵抗した強者もいたけれど。」

サッカー部の躍進

「世情はそうようにひしひしと緊迫を感じている間に、一方運動部では、着々と成長していたといえるだろう。」

「黒正先生は、運動と勉強を区別

するのだ。」

「僕が復員したのは二十二年の夏だったが、荒廃した故郷の土に立つて、先づ何を考えたかということ、母校はどうなっているかということだ。早速、学校を訪れて安心したことは校舎が存在したこと、次に驚いたことは、運動場が女生徒で花が咲いたようだったこと。そして、大北先生や、梅田先生の顔を見てホッとしたこと。」

心の故郷として

「そうだよ。母校はいつまでも、我々の心の故郷なのだ。学校というものは不思議なもので、卒業して年月が経てば経つほど、学校と自分を結ぶキズナは太くなる。自分に続く弟妹達に、幸あれかしと願う心はますます切なるのだ。在学期間は三年乃至四年だけれど、卒業してからは何

することをやかましく言われた。運動の練習は放課後でないと、絶対許可されなかったことだ。その考え方が、かえって、緊張感を深めて、いい成績を持って行けたんではないだろうか。中でも、サッカーの躍進はめざましかった。つまり関西一部昇格、全国高商大会優勝と、矢継ぎ早やに、全国的に名声を高からしめたのもその頃だ。」

「プールを持たざる水泳部の、関西二部優勝も、或る意味では、画期的といえるね。」

「柔道部、剣道部もさるものだった。実にモサが揃っていた感じだな。次々と優勝旗を斉らしたのは愉快だった。」

「いつだったか、柔道部がインターカレッジで優勝した時だ。心斎橋筋をデモったものだ。あまり血氣にあふれて、十合のウインドガラスを割ってしまったんだ。罰金が当時の金で五十円。我々の力ではどうにもならぬ。黒正先生に恐る恐る申し上げて頭を下げた。先生は一寸も叱られなかった。『気を付けるんだよ』そうおっしゃって五十円を渡された。すまなくて、すまなくて、あの時ほど、先生の温い愛情を感じたことはない。青年の純心が歪められず、未だに我々の胸にしみこんでいるような気がする。」

「野球部もようやく脚光を浴びかけて来たんだけど、今一步の感があつた。市大との定期戦には全校を挙げて杉本町までおしかけたが、四対二で敗れた時は実に残念だった。」

「陸上部で思い出すことは、六回の関口君だね。彼は入学して、始めて、砲丸とハンマーを手にしたんだ。それ以来、彼の練習は、雨の日も、風の日もたゆまなく続いた。と



勤労奉仕この汗も尊い訓教だった

「僕は第一に黒正イズムの継承だと思ふ。黒正イズムとは何ぞやと、たびたびいわれるのだが、いろいろ表現の仕方もあろうが、要言するに『自立の精神』といえると思う。時代は今大きく変貌を見せようとしている時だ。学歴や境遇に甘えることなく、自分自身で切り開いて行かねばなるまい。どんな狭路に立っても、フロンティア精神で臨むべきだと思ふ。一人一人が経大の歴史を担うという自負を持ちたいね。」

「そろそろ紙面が尽きて来たが、果して適切な回顧が出来ただろうか。出来る限り、最大公約数を語ったつもりだけれど、足らざるは夫々補っていただきたい。只、ここから何かを引出していたければ幸いだ。」

「いろいろどうもありがとう。」

同窓会支部だより

同窓会支部は、いま十八ある。その地方地方で特色ある活動が行なわれているが、これはその報告である。

またお便り下さい

東 海 支 部

母校の後輩諸氏のために東海支部同窓会の近況及びその活躍振りを何か書いて欲しいと依頼され、後輩諸君の何かのお役に立てばと思いここに若輩ながら一筆啓上させていただきます。

我々大阪経済大学同窓会東海支部は支部長、岡田佐市（岡田KK社長）を筆頭に、愛知、三重、岐阜、静岡の四県で組織されており、その数約二〇〇名で、その目的は先輩、後輩を通じて、また各職場を通じて親睦を深め相互援助をはかり、さらにはそれぞれの企業における各個人の人格形成、営業促進、ひいては企業の発展を目指すところにあるといえる。

ところで昨年十二月十日同窓会東海支部の創立20周年記念の総会が開かれましたが、この時は学長先生をお迎えして、また各教授方や、各職場についておられる方々が（先輩諸氏が）忙しい業務の時間をさいて、多数御出席になり、出席数三十名と云う創立20周年記念にふさわしい幕を閉じることが出来ました。

この先輩諸氏の中には毎年、大学の卒業式の中で卒業生達に暖かい激励の言葉を下さる方々や、また鉄道、銀行、運送業、その他、あらゆる分野で責任ある業務にたずさわっておられる方々が多数でありました。

この方々には、母校が大学として発足する以前に卒業された方々ばかりでその苦難に満ちた人生経験の中から得られた貴重な体験、思想、根性を我々後輩達に教えて下さいます。また我々もこの貴重な教訓を根源とした良き先輩が多数おられることを心強く思い、誇りとして、我々がこれから突き当らねばならぬであろう人生の種々の壁に対しても、根気強く、それを乗り越切る力を、これから先輩諸氏の中から学び取っていただきたいものです。

諸君も、このような立派な先輩諸氏を持たれることを誇りとし、名譽ある大阪経大で学び、また卒業されることを、自覚され、堂々と艱難辛苦の道を歩まれるよう、切望致します。

花道よりも次の道を我々経大生が選び進むことこそ母校の発展、また母校への恩返しになるのではなから

うか。

長々と生意気な事を書き述べましたが、最後一言、「後輩諸君よ」偉大な人間になれとはあえて申しません。ただ誠実味のある人間になって欲しいのです。

第三十二回 今岡 雅彦
住所 名古屋瑞穂区金塚町
岡田KK金塚寮
勸先 岡田 樹

福 井 支 部

待望久しい大阪経済大学福井県支部結成が、高島良一、吉田敬、鈴木敏憲、池田隆夫の諸氏を始め、母校を思う県内居住有志の並々ならぬ努力と地元福井新聞社の好意とに預りまして、昭和四十一年十一月敦賀市において開催することが出来ました。この日は母校よりはるばると藤原光治郎、土生秀穂、中村九一郎先生のご来賓を仰ぎ、ささやか乍らも盛大に挙行出来ましたことを何よりも喜んだ一人であります。

これ全く諸先生方を始めとして同窓会本部渡辺理事長様、役員各位の深い理解とご支援の賜であり、この

御世話に充分に果す事が出来ず同窓会本部に色々御迷惑をお掛けしている事を誌上より深くお詫び申し上げます。

工業地帯のメッカ水島も日進歩に発展し川崎製鉄も十八日に火入式が終りいよいよ活動も軌道に乗って来ております。同窓生諸兄も御来岡の節は是非御立寄り願ひ、水島を見学して頃き度い事を念願します。

同封の写真支部総会の時の物です。最後に母校の発展と同窓生諸兄の御多幸を御祈りします。

（岡山支部、水島中央病院企画部長 大森喜志）

山 口 支 部

昭和四十二年度第一回支部大会は去る三月五日下関市に於いて、渡辺世良、岡理事、北里教授をゲストに迎へ盛大に催された。午前中はゲスト諸氏を支部員運転の車で秋芳洞等名所旧跡を案内し非常に喜ばれた。支部長小田護氏（三回生）は当地実業界でも活躍されその敏腕振るもさること乍ら人も知る一六ミリ映画の隠れた名プロデューサーである。大会の幕開きは氏の天然色超大作映画重要無形文化財下関市「先帝祭」の上映で始まった。

先帝祭の由緒は嘉永四年三月壇の浦の合戦に於いて二位の尼に抱かれて入水された幼帝安德天皇及び平家一族をしのんで行なわれるもので、平家滅亡の時生き残った女官等がこれらの墓前に詣でる事を怠らなかつた風習が七百七十年の今日まで、残っているのである。

鮮明なる画面に現われる光景に、出席者一同七百七十年の昔に思い

点誌上をお借りして厚く御礼を申し上げます。

しかし乍ら何と申ししても会員三十名程度の極めて弱少支部でありますので皆様方の深いご同情と今後の指導の程を切にお願い申し上げます。次第であります。

最後に母校の愈々発展と同窓会々員皆様のご多幸の程を心からお祈り致すと共に、各位の深いご理解とご援助に對し厚くお礼を申し上げ、福井県支部設立のご挨拶とご報告に代えさせていただきます。

以上

福井県支部長（六回卒）内田 甫

神 戸 支 部

神戸支部が支部として、組織的に新発足してからもう二年近くなります。

其の間支部総会を三回開催し、この五月頃第四回目を二十七回卒の主催で、行なわれる事になっています。第二回目の支部総会の時、二十四回卒の方々の努力に依り支部名簿が編纂され来会者に配布されました。

四十一年暮れには、支部の経緯、支部規約、支部名簿、及び各卒業回より一名づつ選出された常任世話人等記載の「神戸支部だより」が発行され、今まで連絡のとれた方々（二十七六名）に発送致しました。何分調査不十分で神戸支部地区在住在勤の方々全員に発送出来なかつたことを残念に思っています。神戸支部より御希望の方はまだ残っていますので支部連絡所までお知らせ下さい、早速御送り致します。

ところで一寸話がそれますが、街を歩いているとたまにま見かけるの

を致し、その心情を察してホロリとさせられたものである。

通常地元の人でもみられない祭の楽屋裏なども紹介され非常に有意義なものであった。

会場には学園歌、応援歌が絶えず流れており老いも若きも惜春の情を思い起し皆々感慨深げであった。「オイ」「オイ」が遠慮なく口をつき、肩を叩き合い、豊かなる淀の流れがぐくんだ心意気は何時までも若々しく心暖まる風情であった。

パーティーでは支部長自慢の大鯉三匹が出された、そのうまさもさること乍ら理事、教授のテーブルスピッチで知る学園の近況は楽しいものばかりであった。パンフレットにみる学園、同窓会会館の素晴らしさ、あの時あのあたりの思い出話はつきない、話はずみ、酒の巡りは、とうとう三、三、七拍子、オールメン拍子と相成った。支部長のクラシック型、中石初代応援団長（二四回）のモダン型の音頭取りは昔とった杵柄血気もさること乍ら力の入ったもので手を打つ方も我を忘れたものである。会場に湧きあがる逍遙歌の合唱……紅潮する顔に昔日の腕白の名残りを感じて愉快であった。

出席の先生方をして「このような和気あいあいの同窓会は初めて見た」と云わしめたものである。

「母校の発展」これは私共が何かにつけ気になっているものである。出席者の殆んどがスケールの小さい不便な学舎で学び、その中で師友との交りの深さ、学問の質の高さを大学の求めるものであると考え努力してきた人々である。

ゲスト先生の語る経大の発展振りは我々の目を見張らせることばかりであり、誰しも、もう一度母校の大

岡 山 支 部

経大同窓生の諸兄

御元気でしようか、岡山支部の同窓生も夫々皆職場に於て母校の名譽を汚がす事なくがんばっています。

支部活動としては別にこれと云って特別の活動もなくおぼろしい事です、昨年の六月支部総会を母校より浅沼先生、広田先輩、在岡の武田、近藤両先生を迎えて岡山市の新

が、〇〇大学倶楽部とか、××会事務所とかいう大学同窓会の連絡所があります。われわれも神戸の中心地域にいつでも気軽にコーヒーでも飲める倶楽部がほしいものです。会社の帰りに一寸寄って碁、将棋、マージャン、音楽も聞けるし、日曜日の酌の相談やハイキング、ゴルフ等の連絡、仕事の事、子供の事、結婚の相談、なんでも話し合える所。神戸地区には約千五百人はいる同窓生が自分の時間の都合の良い時に遊びに行ける集合場所、誰か良い場所を提示して呉れませんか？将来は大阪経大同窓会神戸支部会館を建てて実費でレストラン、室内競技場から結婚式場にも発展させ卒業生のための施設として運営したいものです。

神戸支部の皆様、まず集合場所をなんとかしようではありませんか。小さいものからだんだん大きくして行けば良いでしょう。同窓会本部も助けて下さる事と思います。皆様お元気で大いに頑張ってください。支部の近況に非ざる事が多く誠に恐縮です。神戸支部連絡所は左記です。

（六回 三好記）

神戸市生田区中山手通七丁目三二 三好 悌彦



岡山支部総会から

水月で開催し、久しぶりに同窓生諸兄の和気あいあいたる雰囲気皆喜んで頂きました。

また岡山の鳥城として知られた城の再建が完成し、この鳥城の完成の蔭に黒正先生の鳥城再建の念願が基礎となつて居たので完成式の前日亀山代議士が黒正先生の墓前に報告に行かれましたので支部としても同行したので御報告します。

又衆議員選挙の際は左藤大阪府知事も黒正先生の墓地の下で大いに黒正先生の人格を演説され岡山支部としても面目を新たにしました事も附記して置きます。

唯お願いして置かねばならない事は支部長をとめております私自身が、職場を交わり水島地区に勤務しておりますので、以前の如く支部の

楠の下に立ってみたいと考えた事だ
らう。

経大の伝統も単科大学と云う形の中に残っていると考える。私達は学舎の増築、設備のデラックス化、図書充実も当然必要と考えるが在校諸君が大阪経済大学が如何なる環境のもとに開校し、歴史的に如何なる人間を社会に供給しようとしたか、云うなれば黒正イズムをよく認識して育って行くように望みたい。特に学園の発展、また社会の要求によってマンモス化される傾向の中にあって学園が精神的に骨抜きにならないように望みたい。古い卒業生と在学生の交流の有り方など検討してみることが必要ではないか。

決定事項

一、支部名称を山口県北九州支部より北九州を分離し、山口県支部とする。徳山地区は山口県支部に属し、徳山分会的な性質をもたせる。

一、次回総会是有志立候補により宇部、小野田地区で開催する。

以上

藤岡忠鷹記(二四回生)

九州支部

九州支部総会は一月二十八日、福岡市で開催。これまでまい年二月経大出張入試が福岡で行なわれるのを機会に、タイミングをあわせて、入試が終ったあと行なっていました。今回は藤田学長が九州の同窓生に、会いたいということで、一月にくりあげて開いたものである。

ちょうど藤田学長は、大阪出発のときは風邪で発熱されていたが、こ

れを押して出席していただきまし
た。また倉辻経済学部長も同行、出

席をえしました。同窓会本部からは渡辺理事長、世良企画部長も遠路参加をえました。九州支部は初めて学長を迎えて、支部総会を開いたわけですが、ゲストとして昭和商時のフランス語の教授で、現在福岡の西南大学教授の高木真助先生も出席され、たいへん盛会でした。

学長・理事長から経大の最近の情勢について話がありましたが、福岡の出張入試の受験生は、年とともにふえ、昭和四十二年のことは三百十九名を数え、昨年の二百四十名に比べると、かなりふえたことになりました。

これは、というのも経大の認識が年と、ともに高まってきていることを示すものと、いえましよう。

九州支部同人とともに、経大がこれからもいっそう発展するようねがつてやまません。

(九州支部長・荒牧博之)

大阪市役所支部

昭和四十二年一月二三日市内北区「八仙閣」において、新年宴会をかねて支部総会を開催した。

参加人員中村支部長以下十六名、同窓会より渡辺理事長が参加され、盛大に、にぎにぎしく行なわれました。

昭和四十一年八月七日から翌日八日にわたって和歌山県橋本市「紀の川苑」において一泊旅行をかねて支部総会を開催した。参加者は中村支部長以下九名。久方ぶりの一泊旅行でしたが参加人員少々少なかったのは残念でした。

和歌山相互銀行支部

「新しい同窓を迎えて」

春は新入行員から……今年もまた大経大の次代のエリート二名を迎えた。職域同窓会支部としては、新しく迎える母校卒業生の受け入れ時期となれば、ささやかな職域支部としては大きな行事という事になる。なるべく多く、他の諸々の大学の数多い志望者の中から榮ある入行を大経大にと、志願する本人よりも気がもめる。

入社志願者の控室で、試験立合の人事課の許可を得て、寸刻の面接をし激励する。「第二の人生の開花」——入社試験のこと——がこれ程深刻なものか、憂鬱に包まれた若人の瞳は暗い。

誰一人として知らぬ索漠の世界、心の寄りどころのない不安感。

「地獄で仏」程の大げさではない。しかし思わぬところで、未知の母校同窓先輩より、たった一言の励ましの言葉が、どれ程の感激と、これからの「第二の人生開花」の挑戦にファイトを奮い起させた事か。

赤色が顔面に漂ったのを読みとっては、少しでもホットした気持ちになる。考えてみれば、おかしいものである。母校とは、計り知れない無形のシンボル、計り知れない無形の牽引、それは価値価格で評価し得ない何ものかのセンチメント(情感)を包蔵し、一種のオール・マイティ的要素をふんだんに持った得体の知れない情感と言え。

「センチメント」と「インフォ

マル」が生産性向上の陰の「大きな潜在意識」となっている事は、ハーバートのレスリスパーカー教授等によって既に解明されている。

謂うところの「ホーソン実験」(ホーソン・エキスプレス・ウエスタン・エレクトリック会社のホーソン工場とハーバート大学の労務管理の共同実験)がそれである。

大学——母校——同窓生、物質的に割切ることのない情感が紐帯となつて、そこに、なごやかな集いが生れ共に励まし合う共通の心の結びつきが生れる。

春夏秋冬、五季あり、豪雪あり、スモッグあり、湿度何%かの此の国に、到るところ観光地あり、湯がわいている。古典をさぐると思えば未だ未だ「日本の古きヨサ」を知る事がいたるところに介在している。よき哉、日本

近代化造成という急務のために、聊かそのヨサも破壊されつつあるが「センチメント」という情感を学理的に体形づけたのは、海の彼方であるかも知れないが「母校」こそ情感の、日本の情感の今日を醸成し来った大きな源泉ではなからうか。

× × × × ×

ともあれ新しい母校のニューフェイスは、いま発刺として、「職業人」としての自覚に燃え、先輩同窓に倍して「未来を担う銀行人」として雄々しくスタートしている。

支部連絡先

支部長 齊藤照雄(第四回)

41年同窓会総会から





正門受付 おみやげもあります



名簿の予約も受けたまわりました



お父さんはビール、坊やはジュース



学生会館懇親会々場

学生生活を語る

＝クラブ活動は年々盛大に＝

—— 同窓会への要望その他につきましてはいずれ後ほど理事長も見えますので、その切に拝聴することにして、まずわれわれが、みなさんにお聞きしたいと思えますのは、最近の自治会活動をはじめ、学術、芸術、体育その他の組織がどのように運営され、どのような成果を収めているかということなのですが、予算の配分を加味して、その辺からお

現在の自治会組織

大学を訪れるたびにいまの学生諸君はいいなあと
思う。立派な学舎、デラックスな図書館、いたれり
つくせりの学生会館。旧校舎の隅でうどんをすすっ
ていたのとは訳がちがう。しかし、それでも学生諸
君には学生諸君の悩みがあるという。思想問題は
わずもがな、学費の問題、学館の問題等々大きく立
派になればなったでまた問題が出てくる。今日はそ
ういった問題を洗いざらい出してもらった。

話していただけませんか。

入沢 まず、現在のクラブ、サークル活動については、全般的に大きな飛躍を上げております。昨年惜しくも野球部が、関西六大学の入替戦で破れましたが、いま一步のところまでいきましたし、カヌーの丸山君はドイツで開かれた国際試合に参加するなど、とりわけ活発に展開されておる。また西日本経済ゼミナール大会が、本学のゼミナールを中心として行なわれることになってい

る。そうしたなかにあつて、僕たちの自治会活動というものは、そうした全般的な盛り上がりの中において飛躍しています。予算の配分の問題を申し上げますと、これは僕たちが執行委員会が中心になって予算を配分する訳で、まず必要経費をとっていく。すなわち、アルバム代、卒業記念品代、新入生記念品代その他諸々のきまったものをもって、その残りの額が四部会の配分予算という形で設定されております。四部会配分予算は、三総部と五独立総部と予算折衝をやるわけですが三総部においては、直接本部の予算として計上し、それぞれの本部が責任をもって、その傘下であるクラブに対して、予算の配分を行なっている。五独立総部については、執行委員会が直接活動状況を保障するだけの最低限の金額について、総ワクはかぎられておりますけれども、できる範囲において

今年は是非
おいで下さい

食券や弁当の用意もしました。



ごちそうはこんなにあります。



懇親会の開かれた学生会館全景



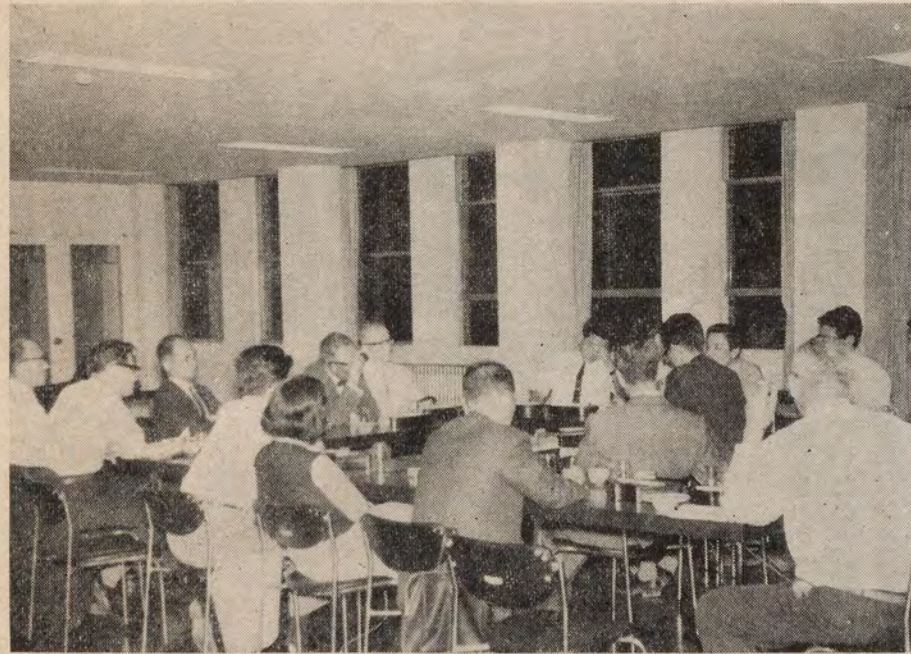
それを保障していくという形で、現在の予算配分が行なわれております。

——つまり自治会そのものは、ピラミッドの頂点にあって、三総部と五独立総部がその下に拡がっている。このように考えていいわけですね。

少い各部予算

中島 そうです。一番上に自治会があって、それは執行委員十五名から形成されており、そのもとに四部会と、もう一方にクラブ代表の代議員がある。四部会はいまいいましたよ

うに、三本部——体育会、芸術会、芸術会の三つがある。この本部のもとに学術会十七、芸術会九、体育会が二十七というクラブをそれぞれもっております。同時に独立総部においては、ワンダーホーゲル部、応援団、新聞会、ゼミナール協議会という形で五つありまして、委員長がいったように、自治会の予算総額がとして千九百万円ですが、クラブに回るのが一千万円くらい、一クラブに割り当てていたら数万円というところで、個人負担がほとんどで焼け石に水というクラブもあります。——そうでしょうね、われわれも



同窓会ホールにおける座談会

同じ道を歩んできたわけですが、現在クラブで合宿とかお互いに予算外で出している金が相当あるでしょう、これとどれくらいになります。

中島 平均したらほぼ四倍くらい。大体八千万円くらいですね。

——何べん試合しても負けてばかりといった(笑い)

中島 それは、練習の過程を重要視しているんで、結果についてはあまり問いません。

学費値上げと学館問題

——それじゃ話題を変えてどうです、学生大会の集まりは、あまり芳しくない?

中島 いや、いや、僕ら四月二十六日、新しくかわったんだけれども、一昨年後半から、ほとんど自治会の機能が果せなかったわけですが、四月から四部会を中心にはこれではというので努力しました結果、四月二十六日の学生大会では、約千二百人近くの学生が参加しました。この前の五月の学生大会では約八百人近くの学生が参加するというところで、去年までは何回も流会していたんですが、ようやく軌道にのりはじめた。二年前の学費問題のころから、いまの五千円の施設費の問題をめぐって、二回生を中心としてきわめて意識が高揚している時期にあると思います。

——その学費値上げはよくわかるんですが、学館問題、これは私ら部外者にはどういうことを要求しているんだか解り兼ねる。これちょっと説明して下さい。

中島 学館問題については、いろいろ問題があると思うけれども、ぼくたちは現在の教育がこれは全国的な問題ですが、私学にとっては、僕らがもともとてきた内容の教育でないということ、これを自治会活動を通じて、みずからのゼミナール活動なんかを含めて追及していきたいという、そういう観点から、サークル活動、自治会活動、いろいろ目的は違

入沢 うちの在学生六千人のうち、常時登校生が二千くらいじゃないですか、その二千くらいが毎日登校して、あとは一週間に一度か二度、三度くらいしか学校に出てこないものが多い。

中島 それはありません。

入沢 僕たち考えますのは、新入生は四、五、六月ごろまでよく授業に出るんです。しかし夏休みをすぎると、いまだ一ぱいだったのが後ろのほうに空席がみえてくる。教室へいっても学生が五百人いると後ろのほうだとなをいっているのかわからない、自然とあほらしくなってくる。そういう形で学校へ出て来ないものもあらん。おもしろくないから遊びにいく。暇があって、金がある、授業はおもしろくない。そういう矛盾が、新入生が学園になれて

っても、一つの自治会運動として発展してきている。そういったなかで、学館は学生の手でやるべきだと考えている。今まで学生活動をやる場所すら保障されていなかったというところで、そういう活動の場ができたということ、喜んではいらんだすが、ただ管理運営をめぐって、ぼくらとしては、そういう活動が保障されるということ、たとえば学生単独の管理運営については十年くらい先のことも予測しなければならぬわけ、大学職員が自治会運動を調査したりするスパイ行為を抑えなければならぬ。それと予算権の問題——学館を使って自治会運動をやるうとすれば、さし当って金がある。しかしながら、その金は自治会側がいままで全部出しているということではどうしようもないということ、学館における学生のさまざまな活動に対する保障を制度のなかに盛り込みでもらうということ、この三つの要求を出して、学校と話し合っているわけです。ぼくたちとしては、教育政策なり、経営政策に対してかならずしも賛成できない面があるわけ。さまざまな弊害、矛盾を学生運動によってなんとか克服しようということなんです。

——配属を拒否するということで他の部署へ配属されることについては、次の問題だと思っています。

——学生の自主管理とはどういうことになるの。

中島 僕らのいつているのは、学館が学生の所有とか、財産権が学生にあるということはいっていない。それを利用する占有権というところ、それを管理するが、学生だけの構成で管理運営権というもの——当然、清掃の問題とか、電気・ボイラーといった問題を学生がやるということとはできないので、これは学校との話し合いでやる以外にないという考えを持っているんですが、その辺の具体的な話し合いにはいる前にモメちゃって……。

——建て物や、その他の管理でもある場所についてはできない面があるわけですね。つまり、学生諸君にとっては十分に利用できればいい、利用者委員会といったものをつくって、スムーズにやれないもんですかね。

中島 それが保障されればいいんだけれども……

学生運動の焦点は

——ところで、いま学生運動の焦点になっているのは。

中島 いまは学費問題と、学館問題、それと政治的な問題では、全国的には砂川基地の問題、こんどのエントープライズの入港問題。

——いろいろあるわけですね。そこでわれわれ学生運動に参加される方などはマージャンにコッている学生さんに比べたらやっぱりだと思ふんですよ。あなたの目からみて、一生懸命勉強したり、思想的にめざめて活動している学生と、遊んでいる学

座談会出席者

学生側

執行委員会委員長

同 新聞会

芸 術 会

同 同 援 団

同 窓 会 側

渡辺理事長、広田事務局長、世良、磯野、比企、玉岡、中村、松本、辰本、各常任理事

入沢友昭君

中島隆久君

小野舜一君

福家寛君

永原重規君

中野篤司君

同窓会側

比企、玉岡、中村、松本、辰本、各常任理事

クラブ活動の現況(体育会)

拳法部 顧問名 渡辺 敬司 部員数 三十三名
日本のスポーツ界より驚異の目で見目されている日本拳法は拳技のほかに組打ちを加えた独特のスポーツであります。昭和三十四年度に昇格後、神戸商大と定期戦を結び、また昨年度から大阪商大、桃山大と交戦試合を行うなど技術面の向上をはかることも、大胆さと、細心さの気構えを養っています。春夏には閑静な所に合宿して部員一同の和合を深めつつ技術と精神の鍛錬を行っています。三十九年度全関西大会にはベスト四に入り、四十一年度東京で行われた全日本大会には、関西選抜校として参加し大阪経済大学の名を全国に知らしめました。今や経大の拳法は飛躍的な発展の途上にあります。

ボクシング部 顧問名 玉井 孝弘 部員数 十九名
ボクシングは近年に入っています。一般化され、いまやスポーツ界においても対するほどの側面からの働きかけがまだ十分でないということも一つの反省だし、社会的な風潮からくる「とかく大学生は」という式の批判がある側面をうちの学生はもっている。授業そのものも、出席をとったとしても、学年末に試験を受ける、その試験も五年も六年も前の講義ノートそのまま、それで同じ内容を書いても点数が違っているというふざけたことがある。そういうことがあると、学生も出なくてもということになってくる。

バドミントン部 顧問名 梅田 武文 部員数 二十名
わが部は昭和二十四年に発足以来、十数年間幾多の難関を克服して今日に至った。先輩諸氏の話によると、創部当時はバスケットボールという競技が一般に理解されておらず、なにかにつけて非常に活動がしにくかったということである。しかし今日は広く一般に理解され、隆盛を極めていく現状をみるに、こういう時期にバスケットができるわれわれは大変幸せであり、またいろいろな点で、バスケットボールをやっている良かったしみじみ思う。さて現在当部は関西学生リーグの三部に属しているが、実力からして

バレーボール部 顧問名 松本 剛 部員数 十二名
二部の上位の実力はあと自負している。当部はバレーボール部の発足は、昭和十六年にまでさかのぼる伝統のあるクラブであります。これは日本のバレーボール界の今日を築いた五人の中の一人である岸本貞二郎氏を生んでいることから実証されます。バレーボールはリクリエーションとして誰でもが楽しむことが出来るスポーツです。中学・高校時代の経験者はもちろん、新しくスポーツを始めたい人でもすぐにはいりやすいクラブです。

軟式庭球部 顧問名 浅沼 玄恵 部員数 三十名
経大軟式庭球部は、数少ない最も伝統あるクラブといっても過言ではない。わが経大軟式庭球部は昭和七年浪華高等商業学校(昭和高等商業学校の前身)創立二年目に軟式庭球部として発足して以来今日に至っており、今年度で三十二回目のOBを送っている。戦績は過去において、西日本大会(団体)に優勝し、その名は全日本に轟き渡った。現在においては、阪神七大学リーグでは十回連続優勝をしており、西日本大会では、笹田・大西組が八位に入り、関西新進大会に小松・真砂組が二位に入賞している。関西リーグでは二部で優勝しながらも入替戦において立命大に敗れ、一部返り咲きは出来なかった。

卓球部 顧問名 藤原光治郎 部員数 十五名
今年度はわが部としては不本意ながら第四位の地位に甘んじたが、常勝関学を破る大奮闘でその実力は学生卓球界より高く評価されるにいたった。また昨年は韓国遠征に本学松山総監督をはじめ奥山英史選手(卒業)をメンバーの一員として派遣した。このようにわが部の実力は現在向上の一途をたどっている。今後一層の努力を重ね、体力の向上と共にまた学生としての秩序を身につけ強靱なるチームワークの下に当部発展のため、また経大発展のために精進する覚悟である。

バスケット部 顧問名 梅田 武文 部員数 二十名
わが部は昭和二十四年に発足以来、十数年間幾多の難関を克服して今日に至った。先輩諸氏の話によると、創部当時はバスケットボールという競技が一般に理解されておらず、なにかにつけて非常に活動がしにくかったということである。しかし今日は広く一般に理解され、隆盛を極めていく現状をみるに、こういう時期にバスケットができるわれわれは大変幸せであり、またいろいろな点で、バスケットボールをやっている良かったしみじみ思う。さて現在当部は関西学生リーグの三部に属しているが、実力からして

バレーボール部 顧問名 松本 剛 部員数 十二名
二部の上位の実力はあと自負している。当部はバレーボール部の発足は、昭和十六年にまでさかのぼる伝統のあるクラブであります。これは日本のバレーボール界の今日を築いた五人の中の一人である岸本貞二郎氏を生んでいることから実証されます。バレーボールはリクリエーションとして誰でもが楽しむことが出来るスポーツです。中学・高校時代の経験者はもちろん、新しくスポーツを始めたい人でもすぐにはいりやすいクラブです。

学外にも広く知られ注目を浴びております。今春は関西I・Cの優勝を第一の目標とし、西日本、大阪、近畿、関西、個人の各選手権、そして関西学生駅伝。加えて東京経大との伝統ある定期戦での連続優勝へと自信と闘志を持って日々の練習に精進を重ねております。

アイススケート部 顧問名 中川 宏 部員数 十五名
二マイル日本記録保持者の鈴木監督のもとで練習に励み、数々の記録を残しています。国体で三位入賞、全日本インドア大会で三位入賞、西日本大会で日本タイ記録樹立。毎年国体に多数の選手を派遣しており、各大会で常時入賞しています。夏季は陸上練習、冬季は軽井沢、白樺湖で水上練習を主体に合宿を行なっています。部員は入学後スケートを初め、短期間で立派なスケーターになり、大会に出場しています。

派手好みの学生
意欲はもっているんですね。今後はそれを自治会活動でいい内容をもたしめるような方途を考えていただきます。つぎに芸術会からもきくらしてやるが、芸術会には何人くらい出てくるの。

永原 うちの軽音とか、マンドリンとか、はなやかな舞台関係は、軽音が千人前後はいります。若い人ははなやかなのが好きで、男性合唱や落ち着いたもの場合は、それより下回ります。

福家 この前、やったのは新入生歓迎として芸術会の内容を知ってもらおうということで、九クラブ全部出たわけです。それで一回生六、七十%が集った。

おしかった関六入り
つぎに体育会の代表はみえていませんが、われわれが新聞などでしょつ中おめにかかるのはこの部門ですが、中野さんあなた応援団でしょつ中応援してらっしゃる、一つ代弁して下さい。野球はさきほど入沢さんおっしゃったが、関六の入れ替え戦でおいしいところで負けちゃった。

中野 近畿リーグで勝って、京滋と阪神と三つやって、きのうからトーナメントです。秋のときにも入れ替え戦までいったんです。(同志社と)近畿リーグは七回連続優勝です。

中野 いい加減はいつてもらわんとこっちもじれちゃう。……その他で主なもの。

入沢 軟庭は、全国二位、準優勝。サッカーは新人戦で同志社と同率首位で引き分け。

中野 卓球もだいぶいいところへいっています。一部で三位。

中島 柔道は七位か八位。

バスケット部 顧問名 梅田 武文 部員数 二十名
わが部は昭和二十四年に発足以来、十数年間幾多の難関を克服して今日に至った。先輩諸氏の話によると、創部当時はバスケットボールという競技が一般に理解されておらず、なにかにつけて非常に活動がしにくかったということである。しかし今日は広く一般に理解され、隆盛を極めていく現状をみるに、こういう時期にバスケットができるわれわれは大変幸せであり、またいろいろな点で、バスケットボールをやっている良かったしみじみ思う。さて現在当部は関西学生リーグの三部に属しているが、実力からして

バレーボール部 顧問名 松本 剛 部員数 十二名
二部の上位の実力はあと自負している。当部はバレーボール部の発足は、昭和十六年にまでさかのぼる伝統のあるクラブであります。これは日本のバレーボール界の今日を築いた五人の中の一人である岸本貞二郎氏を生んでいることから実証されます。バレーボールはリクリエーションとして誰でもが楽しむことが出来るスポーツです。中学・高校時代の経験者はもちろん、新しくスポーツを始めたい人でもすぐにはいりやすいクラブです。

軟式庭球部 顧問名 浅沼 玄恵 部員数 三十名
経大軟式庭球部は、数少ない最も伝統あるクラブといっても過言ではない。わが経大軟式庭球部は昭和七年浪華高等商業学校(昭和高等商業学校の前身)創立二年目に軟式庭球部として発足して以来今日に至っており、今年度で三十二回目のOBを送っている。戦績は過去において、西日本大会(団体)に優勝し、その名は全日本に轟き渡った。現在においては、阪神七大学リーグでは十回連続優勝をしており、西日本大会では、笹田・大西組が八位に入り、関西新進大会に小松・真砂組が二位に入賞している。関西リーグでは二部で優勝しながらも入替戦において立命大に敗れ、一部返り咲きは出来なかった。

卓球部 顧問名 藤原光治郎 部員数 十五名
今年度はわが部としては不本意ながら第四位の地位に甘んじたが、常勝関学を破る大奮闘でその実力は学生卓球界より高く評価されるにいたった。また昨年は韓国遠征に本学松山総監督をはじめ奥山英史選手(卒業)をメンバーの一員として派遣した。このようにわが部の実力は現在向上の一途をたどっている。今後一層の努力を重ね、体力の向上と共にまた学生としての秩序を身につけ強靱なるチームワークの下に当部発展のため、また経大発展のために精進する覚悟である。

さん。
福家 所属クラブでは何位何位とつけるものはないんです。軽音楽は大学対抗バンドとラジオ放送もされます。一流校にまさるとも劣らぬ実力を備えています。演劇部にしても学内発表とか、いろいろのシナリオの研究とか、活躍しております。写真部も熱心に何回か展示会を行ないまして、一応撮影会とか、出張撮影をやつてがんばっております。映画研究部もこの前、高野山で合宿を行なったんです。そのさいに十六ミリを撮影しまして、この前、一般公開したわけです。グリークラブこれは大阪府の合唱会とともに一応三位、関西で六位、ただいま会員も百名近くふえまして、一生懸命がんばっております。グリーについてはピアノがあったらと思います。学館ホールにでも一つあったらそれを利用して、だいぶ効果もある。美術研究部は年三回ないし四回、現代画廊、浪速画廊において、デザイン美術展を行なっております。吟詠部は、全吟連に出場して活躍しております。マンドリンクラブも新しいですが五大学の合同演奏会を行っております。それで、芸術会本部主催で、グリー、マンドリン、軽音、吟詠とかいう舞台関係の実演が、六月二十四日大阪森の宮の厚生会館であります。

好評だったゼミ大会

中島 ケインズ理論とマルクス理論がいつも出てまいります、こんど

の場合は「日本資本主義の構造的特質」というテーマだったんですが、お互いの討論がカミ合えるように、討論のなかから行動的な独立を、どちらの立場からかかかっているのじゃないかという引き出し役だったんです。内容として討論は十分に展開されたということで、他大学からの評価はよかった。それと討論が展開されると、専門的学問的分野になると、うちの学生は論争にははいるが、もう一步という点で、十分に内容のある討論を多勢の学生がどんなやるといふことじゃなくて、かぎられた学生しか討論に参加できない側面をもっている。

—— 独立総部、新聞会が十五名、ちょっと少なすぎるんじゃないですか。

小野 商業新聞における機関紙とは性格を異にしている。あくまで学園における報道機関としてやっていきたい。はつきりいって利害関係とかいうものに左右されるものじゃなく事実をビクアッした形において、それをどうみるのか、現在の状況をどう判断して、なにが真実なのかということをやキャンペーンしていく。

—— 何回出していますか？

小野 月に一回、ただし学生大会とか大きな問題があったときには、号外的な形でタブロイド版を出しています。

—— 発行部数は？

小野 普通は四千部くらいです。大学祭号とか新入生号を出す場合は、五千ないし、六千部くらい。

—— 無料配布？

小野 僕は買ってもらえるような新聞をつくりたいのですが、売っていません。無料配布です。

クラブ活動の現況(体育会)

柔道部 顧問名 入江 正 部員数 三十名
柔道部は本学創立以来の古い伝統を有し、昭和前期時代は大阪学生柔道連盟において昭和十五年(十八年)の四年連続優勝の栄をえた。戦後三十二年萩原現監督及び諸先輩の御協力により遂年その実力を向上し、近畿地区大学大会において三十五、三十八、三十七年と三連覇の輝かしい成果を上げ三十八、三十九年と関西大会六位内に入り全国大会出場の栄を獲得し、昨年度の全国学生重量別選手権大会中量級の部においてベスト四の成績をおさめた。現在入江先生を顧問に大阪府警西岡七段を師範とし益々その技を磨き全国制覇を目指しつつ連日猛練習に打ちこんでいます。

空手道部 顧問名 鈴木 正里 部員数 五十九名
空手道部の基本的精神である「折衝に始まり折衝に終る」この精神をあくまで根強く固守して来たのが空手道部は創立以来十数年の歴史を迎えた今日、増々充実したものとなっている。わが空手道部は心身の鍛錬と自己に自信を植えつけ、且つすべての生活にも役立たせ、他からも尊敬されるような人格の形成を目的とするものである。空手道も今日では完全にスポーツ化し毎年行なわれる全日本、全関西あるいは西日本の各学生選手権大会にも毎年出場し、その技を競っている。三十八年度の全日本学生空手道選手権大会においては準優勝、また四十一年度第一回関西個人選手権には準優勝と輝かしい成績を重ね今や「学生空手道に大阪経大あり」とまでいわれ、今や飛躍的な発展の途上にある。

剣道部 顧問名 倉辻 平治 部員数 四十名
最近、全国の剣道人口は益々増加しており、また、新聞紙上等にも剣道が取り上げられ、また、高校で正課として認められて来ている。なぜ剣道がこのように注目を集めているかといえは、他のスポーツのように「技」だけが主体でなく、それ以上に「心」の鍛錬が重視される武

道だからです。わが剣道部も、礼儀作法には力を入れ、経大剣道部で四年間を過ごした学生は、社会に出てそのままだ一人前の男として認められると信じております。練習は厳しい。しかし、その厳しさを乗り切って初めて「根性」が養われるのです。四十一年度わが剣道部の成績は関西大会に上位を占め、全国大会の団体戦に出場し活躍しました。

山岳部

顧問名 大槻 弘 部員数 十名
わが山岳部は、本学クラブの中でも伝統あるクラブの一つである。我々山岳部員は少数ではあるが、その伝統に支えられ、また個人個人の努力により、お互いに、信じ合い、協力し合い、強力なチームワーク、家族的な交わりのもとにクラブ発展に努力し、着々とその成果をあげています。その成果として、昨年第一回海外遠征隊を派遣、二、三年後には、第二回海外遠征の計画を進めています。

自転車部

顧問名 泉谷 勝美 部員数 十三名
現在、わが部は発展、進歩の途上であり、関西学生、全日本学生、アマチュア各自転車競技連盟に加盟し、関西の雄として自他共に許している。自転車競技では、東京オリムピックによって、人々に理解され、一層興味を深めたのである。その後、自転車部も最近とみに向上し、最高技術、記録更新も期待されてきた。公式参加レースとして、国体、高宮杯琵琶湖一周アマチュアロードレース、全日本学生選手権、学生チームロードレース、全関西学生選手権、関西学生チームロードレース等各種大会に出場し、その実力を充分に発揮してきた。春夏二期のみならず随時合宿を行い、部員相互の親睦を図り、精神修養、身体練習を行なっている。また自転車による日本一周(北海道・沖縄)走破により、地方の風物、習慣、文化、歴史、産業、各方面の見聞を広め、規律あるグループ行動、及び学生生活の良い習慣を体得し、学生としての見識、教養、さらには社会生活での忍耐力を涵養せんことを目的としている。

—— 他大学の新聞交換はやっていますか。

小野 全国学生新聞連盟と連絡という形でやっています。加盟校は百二十八校、学生新聞というのは、政治的なイデオロギー的な側面をふまえているから、組織内部で分裂をやったりすることが若干あるわけです。一応、新聞の交換は全国的にやっています。

—— お金をとっていないのだから、同窓生にかぎり、一年にいくらか、援助金みたいなかっこうで取って送れば……。

小野 先輩の方だとか、経大新聞送ってほしいという人には、名前をお聞きして、出したときに送っています。卒業された方、全部に送るなんてことは現実的にはちょっと無理。—— 常任理事とかいう範囲だけでも送っていたら、この問題は

クラブ活動の現況(体育会)

スキー部 顧問名 山本 晴義 部員数 三十名
わが経大スキー部はまた三年足らずの若い部ではあるが、一昨年、昨年三月の全関西学生スキー選手権大会において二部で堂々二年連続三位を獲得し、また十月の連盟主催の十五キロメートルマラソンにおいて二位、四位、六位と入賞者三名をだして大いに気を吐いた。

我々部員一同一九九と成って技術の向上及び精神面の鍛錬をモットーに連日練習に練習を重ねているが、その成果は各校をして目をみはらせ早くもダークホースとして注目されるまでになり、来たるベキシーズンが期待されている。

四十一年度冬季合宿は十二月北海道山田温泉スキー場、二月上旬(三月中旬)岐阜県流葉にて春期合宿を行い、三月十一日(十四日)の新潟県赤倉においての全関西学生スキー選手権大会に参加する。また今年度は一月八日、九日の大阪府スキー選手権大会にも出場し団体進出をねら

前からいっているんですが、新聞部の事務の申し送りが全然ないようですね。

小野 責任を転嫁してはいかんのですが、何分、十五人ないし、二十人くらいの組織ですので、活動の範囲も制限される。こん後できるだけ、かわるときにコミュニケーションを通じてやっていきたい。

—— 応援団も活躍中

—— それじゃ、応援団の活動状況を中野さん。

中野 そうですね。結局、ぼくらこんなことをいうとおかしいが、表面の趣旨は、学校繁栄のために全力を尽すということ、その方にはほくらも全力を惜しみませんが、それ以上にキザなことばですが、人間性という面を力を入れて、自分ら応援団だけのことにこだわって

も意味がないし、いわゆる運動の応援には参加しているんですが、そのなかで人間形成ということになってくると、問題がシゴキとか、僕らにいわしたる程度のあいいうなぐったりすることは大目にみてもらわんと困るんです。

—— やはりやっている？

中野 とときどきやっています。正直いって。

中島 応援団もわかりました。この一年というのは、内部からの民主的な改革でものごくわかりました。

中野 いまの状態では、昔のようになぐたりしたら、後輩もついてきませんし、はつきりいって僕らもやりにくくて困っています。

—— 放送局というのは？

中島 去年は全国的なドラマコンクールで三位、これは経大で十五周年でやる。四十五人くらいじゃないんですか、これも金の問題でスタジオがないでしょう。それも全部自治会負担です。

—— その金の問題では……自治会の予算が九百万円、これを各クラブで使っているわけですが、使った用途の点検をきびしくやっているわけですか。

中島 いままでルーズな点がなきにしもあらずでしたが、現在は帳簿も全部検査してやっています。監査委員を選んでやっています。

—— それじゃ一応話をこれ位にして渡辺理事長あなたから

あくまでも学問中心に

渡辺 たいへん遅れてきて、申しわけないんですが、きょうの会合は、同窓会誌の編集に当たっている方が、自治会のみなさんからいろいろなことをお聞きしたいということ

で、委員長はじめ、自治会のみなさんにお集り願ったんで、端的に申し上げますと、ようやくにして委員長がきまった。学生諸君が一つに固まったということとは非常にのぞましいことで、自治会のなかには各組織があつて、各部が責任をもっているという活動をやられているんですが、みなさん方の学校に対する大きな問題は、学問に対する情熱をもって学校に出てくるのだけれども、しかし教室がない、先生がたらない、休講が多いというところで、非常に不満を感じられておる。本日、学生諸君だけで、大学側の先生が出ていないので、片手落ちのところがあったが、そこでみなさんに要望するのは、私は同窓会の理事長であり、かつ学校の理事でもある。したがって取り進めないではないけれども、みなさん方、学問を研究するというところで入学された。あくまでも学問を中心に考える。それが学校に出てきて教室がないから、自然学問に対する情熱が薄れて休まなければならないというのは、奇弁じゃないかと考えるのです。学校へきて、二百人ないし三百人あるいは五百人くるかしらんが講義を受けるけれどもなにをいうているかわからん。いいながら特別講演がある二千五百人もくる。そういう姿であるならば、どうして本学の教授がそれだけの識見がないのかというのをいわざるを得ない。本学にも立派な先生がたくさんおられる。三百人おつてもみんなが静かにして聞いておればわかると思う。一年生当時はまじめに出てくるが二年、三年、四年になるとだんだん少なくなる。これは一般の大学と同じだと思ふ。ひとり大阪経大だけがマスプロ教育をやっているんじゃない。とく

クラブ活動の現況(体育会)

ラグビー部 顧問名 土生 秀穂 部員数 三十七名
昭和三十八年度は、昭和三十三年三月に昭和高等商業学校ラグビー部として、初めて創立され、永い伝統と戦歴において、内外共に真の大阪経済大学ラグビー部として著しく向上、その存在を認められてきた。
昭和四十年年度には、念願のAブロック入りを果たし、昭和四十一年度は初めてのAブロックでの試合で、部員一同の奮闘も空しく最下位の成績に終わったが、Bブロックとの入替戦に勝ち今シーズンもAブロックに残留した。年間行事としては、四月初旬の春季合宿、四月下旬より各大学、社会人チームとの練習試合、八月の夏季合宿、九月よりのシーズンがある。本年度はAブロックの上位進出を目標に、岡本先生の指導のもとに練習に励んでいる。

サッカー部 顧問名 浜本 泰 部員数 三十二名
サッカー部の本学における歴史は古くにみえ、昭和十一年度には、関西及び関東サッカー界にその名を高め、著実に経大の発展と共に歩んできた。その間幾多の名選手を輩出し、関西リーグにおいては三十一年度に関西王座を勝ち得、その後関西学生界をリードしてきた。また毎年関東リーグの雄中央大学と技術交換をモットーに定期戦を行なっている。この中経定期戦は早稲田と共に高く評価されている。昨年度、大阪リーグ優勝、関西学生新人戦三位、中経定期戦引分け、関西リーグにはイレブンの若さから実力を発揮できず、四位に留まりしたが、本年度は新監督の下で近年に充実したチームなので部員一同「関西ひいては全日本学生制覇」を目ざし練習に励んでいる。

ハンドボール部 顧問名 与田 征 部員数 二十二名
伝統あるわが部は創立以来すでに十九年になります。わが部の目標であった一部入りも昭和三十八年に達成することができ、春秋リーグ戦においては一部で

の活躍の足がためをするにいたりまし。わが部は現在一部リーグの下位を占まようとしているが、来季には上位進出が可能になるものと信じている。毎年関東大学リーグの雄東京教育大学と定期戦を行ない、技術の向上と両校の親睦をはかっています。我々部員はリーグ上位進出を目標に毎日練習に励んでいます。

準硬式野球部 顧問名 梅田 武文 部員数 二十一一名
わが経大体育会の数多いクラブの中で唯一の日本選手権を獲得し全国制覇を成し遂げたクラブで、昭和二十四年に同好会として発足、同年近畿六大学リーグを結成し、部に昇格以来十七年間に多数の大会及びリーグ戦に参加、優勝、準優勝、三位と常に大学野球の上位クラスを独占して今日に及んでいる。その間、種々の苦難もなかった訳でないが、全部員、OBが一丸となった努力が効を奏し、今日この榮譽を得ている。昭和四十年春季リーグ戦において八勝二敗二引分で優勝を飾り、夏季に神宮球場で行な

硬式庭球部 顧問名 杉浦 貫一 部員数 十七名
わが部がクラブとして創設されてから十余年にもなり過去インターカレッジに出場した者、あるいは毎年おこなわれる和歌山大学杯で優勝した者もあり、さらにこれに匹敵する成績を毎年あげております。特に新入部員にとって試金石となる個人戦が春、秋とこなわれ、また毎年七月と三月にリーグ戦や個人戦をめざして全国各地で合宿をおこないます。この合宿は部員にとって鍛錬の場でもあり、クラブを通して学生生活の良き思い出になる事を確信するとともに、我々部員にとって三部さらに上位昇格が最大の目標です。

き、ある先生から、うちの学校なんか単科大学だからマスポロではない。昔の京大なんか五百人くらいの講義はしょ中あったんだから、こういうマイクで授業することにあるあなたたち甘えていることがあるのじゃないか、もっと勉強というものは主体的なものだと思つて。

同窓会、学生の
話合いの場を

——これはやりかけたらキリがないと思う。われわれとあなたたちだけの問題でなく、学校側も含めて真剣に考えたい問題ですね。

中島 いままでは全然同窓会からお話がないわけです。こういう座談会とか、もっと日常ブラリと訪ねてこられて話をするとか、という形で、

さきほどからいう教育の問題、お互いがお互いの城を守っておつてはどうしようもないと思うのです。ほんとうに経大の教育の発展のためのお話をやるべきだ。同時に何回もいっているように、現在学校の学費問題にしても、経営者はどうしようもないとおっしゃるが、学生も一円でも上がったら困る。下宿が一カ月二万円、それに奨学金をいただいてもおつても十分でない。そのうえに学費値上げでしょう。

——事実、お話し合いをもつということは去年からのわれわれの念願で、座談会も早くもちたかったが、なかなか機会がなかったんで、これからできるだけ定期的にやりたいと思います。いや、長時間どうもありがとうございました。

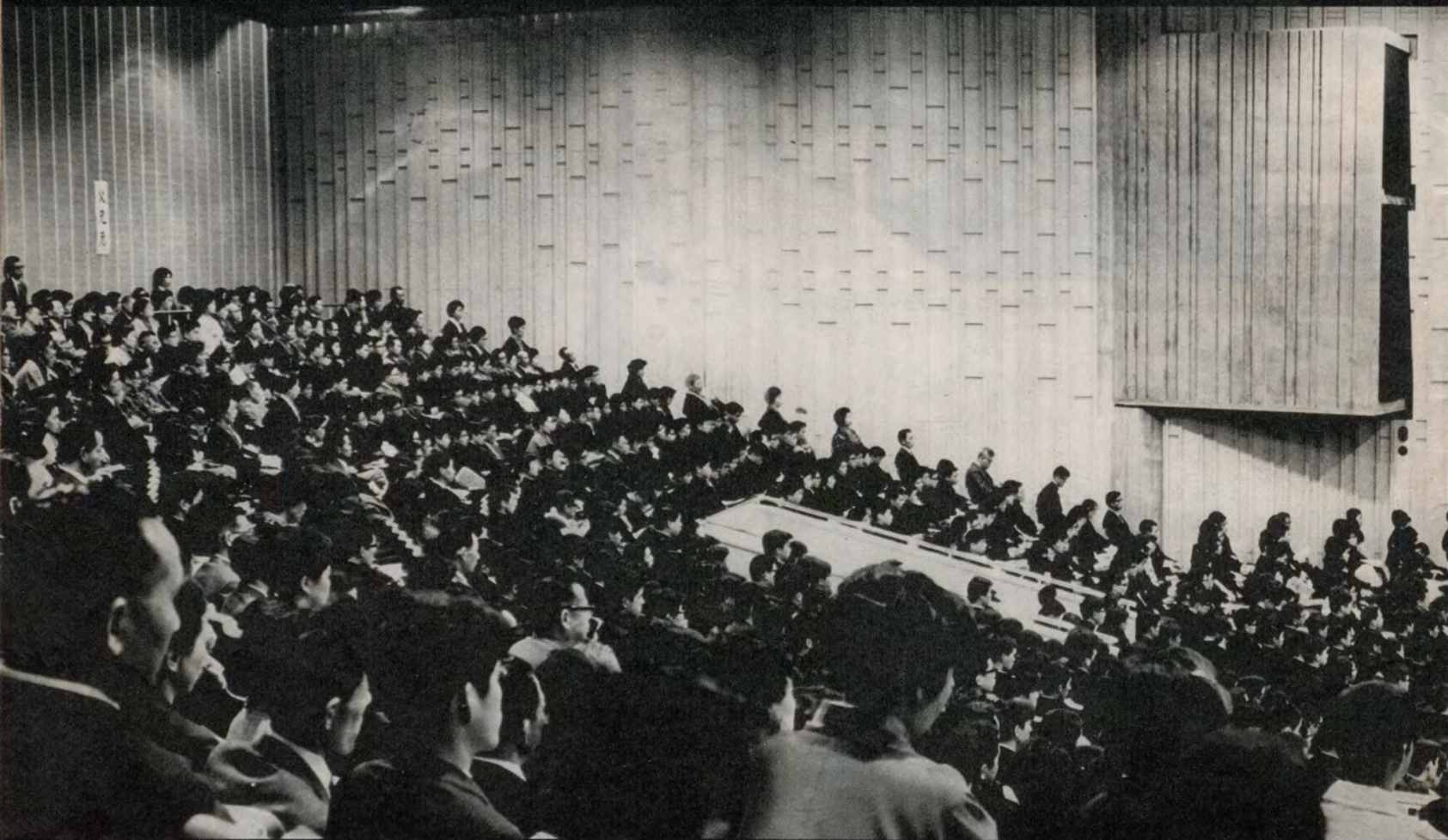
入学おめでとう!

——今年の入學式から——



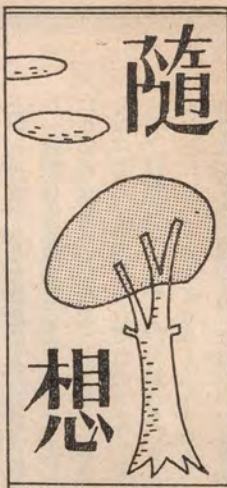
今年もまた競争率二〇倍という、大変な難関を突破して、新入生が希望を胸いっぱい校門をはいってくる。どの顔もどの顔も笑いでいっぱい。まさにわが生涯最良の日である。早くもクラブに入部を奨める先輩、よかったなあと肩を叩き合う同僚、どこにでも見られる入学式のほ、えましい光景である。

お父さんやお母さんも、やっと息子といつしように念願の大学の門をくぐって、今日ばかりは顔はくすねばなし、ほんとうによかったあ。大学全体が喜びに満ちた一日だった。



入学式は3回にわけて行なわれた。その
1回もごらんの通りホールはいっぱい。

就いては職員も成るべく私の門下同僚、先輩を以て之に当て教育陣に於ては官立の高商以上にて、従来は前校長非行の為の生徒もさ迄多からざりしも目下は多くなり、殊に本年は希望者四百を越る有様、財政状態もよろしく、又本財団は私と京阪電車と共同にて作り直したるもの故、財政内容についても全部私が知悉し、経営せる有様に候、就いては今後益々改善し天下の範たらんと企てその為



あの頃のこと



奥村日出男

私は本年三月定年退職した。二十八年間大過なく過せたことは、当局、同僚、同窓会諸兄姉御支援の賜と有り難く思っている。尚当分専任の扱いで出講をつづけられるのも、仕合せである。

「拝啓その後は御無沙汰仕候。皆様御変無之候也。本年は殊の外暖かく凌ぎよき事に候私も無事消光罷在候間何卒御放念下され度候却説突然書面をさし上げ失礼候へども、私事一昨年秋より文部省の切なる希望により大阪昭和高等商業学校々長を兼任致し、私一家の教育方針により独自の経営を致し居り候

就いては職員も成るべく私の門下同僚、先輩を以て之に当て教育陣に於ては官立の高商以上にて、従来は前校長非行の為の生徒もさ迄多からざりしも目下は多くなり、殊に本年は希望者四百を越る有様、財政状態もよろしく、又本財団は私と京阪電車と共同にて作り直したるもの故、財政内容についても全部私が知悉し、経営せる有様に候、就いては今後益々改善し天下の範たらんと企てその為

入学式の
スナップ集

お父さんお母さんも緊張の中にも喜びがいっぱい。

これからは、仲よくやろうよね—



正門前では早や先輩のデモンストレーション

優秀なる英語の職員を入れたし、英語は他にも沢山希望者あれども成るべくは知人を求め度く候、誠に失礼なる申分なれども若し恩給を己に学兄がとられ内地帰還を希望せらるるならば、百二十四位は支出しうる予定に候、時間の余裕を以て他に内職せらるる事も全く差支無之候、学校の内容は別紙の如きものに候間若し御希望ならば私の願お入れ下され度候何卒学兄の忌憚なき御意見御開陳下され度候、数年の後には財政は頗る豊富となる予定に候間その際は何とか相成る事と存じ候先づは取り敢へず御願迄 早々

三月二十五日

黒正 巖

奥村学兄

既に四兄の父であった私としてはその教育のことを考えて大いに心を動かしたが、来示の条件とその時私がうけていた待遇に差がありすぎ、私の将来を思つての野田旅順工大学長（後の大阪工大学長）が大反対であった為二年も実現がおくれ、昭和十四年四月来任するに至つたのであった。

当時の理事長は京阪電鉄社長の有田氏であったが菅野先生や藤田先生が理事として実権を握られ、また出講もされていた。無論大北、藤原、梅田、浅沼の四先生が引き続き今日まで専任でいられることは心強き限りである。

現教授上田先生は図書課長、産業大学の寺尾教授は生徒課長、菊田、西島、近藤の各教授も出講されていたし、評論家久野収氏も深

い関係があり、非常勤講師の川原氏が今に至るまで来講されていることは奇特の至りである。

ともかくも全校生徒数千人に満たない、小じんまりとした手頃の学校で、いかめしい官僚主義の外地大学から来た私から見ると自由の空気がみなぎり、職員間もなごやか、学生の学校当局に対する態度も極めて協力的であった。（この気風はずっと後までつづき、二十四年昇格の際若月君や百々瀬君がイデオロギーをぬきにして学校のため涙ぐましい努力となつて表われたのである。）

また当時最上級であった永川、大森、荒牧、岡田、の四君が揃つて同窓会支部長をしておられることも注目に値する。（剣道部長時代の武内、植村、河津諸君の勇姿、ESS顧問としては門田、松本、村上、大橋の諸君の活躍振りも思い出のたねである）

もともと消極的に出来ている私は黒正校長のような太く短く（これは悲しいことであつたが）ではなく細く長く行きたい主義だったので「長」と名のつく責任ある地位につくことを好まず、上田教授転出後の図書課長は黙つてお受けしたが、寺尾教授に代つて生徒課長を命ぜられた時は極力抵抗し、大いに黒正校長の機嫌を損じたが、結局菅野先生に説得されて就任し戦後に及んだ。さぞ無能ぶりを発揮し各方面に御迷惑をおかけしたこと今思い出しでも冷汗が出る。幸い梅田先生や風間先生の御蔭で何とかお茶を濁したのであった。

先輩諸生 原稿をおよせ下さい

「澱江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたいと存じます。

つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいます。随想も

ちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。

遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

かく往時を顧みるにつけても今日の発展は驚異そのもので、日ならずして十億にも達する予算をもつ学園になるとは誰が予想したであろうか。歴代当局者の努力を多とするは勿論黒正学長始め、西の入、西沢の両理事長、石川、秋本両教授其の他今は亡き功労者の霊に感謝の祈りを捧げることを忘れてはならないと思う。

(本学名誉教授)

「人づくり」について



山上善彦

陽春三月、新同窓会員の皆様をお迎えして、ますます進展を続ける母校の姿を眺めて、誠に慶賀の至りに堪えません。ここにお互いインテリジェント・メンとして最近の「人づくり」についてどうあるべきかに関し松下幸之助著「なぜ」に次の如く面白くのべて居られるのでご紹介申し上げ我等の指針の一助にもなれば幸甚であります。

即ち近時「人づくり」ということが盛んに論議されているが、これはまことに結構なことである。国家の繁栄も、国民の幸福も、あるいは世界の平和も、その基盤は人間の正しい育成にあると思うからである。ところで、残念なことに「人づくり」ということは強調されていても、こういう人間をつくらねばよいというハッキリした理想の人間像が、われわれ一般国民に認識されるような形で示されていないのではないかと思うのである。だから今は、各人、各団体それぞれの考えにもとづいて、いわゆる「人づくり」がバラバラにおこなわれている現状にあると思う。勿論、これは人づくりの問題だけではない。我国全体

のことを考えても、これを運営する一つの方針が、明確に定められていない現状にあるのではないだろうか。以前は「富国強兵」といった一つの国是ともいうべきものがあつた。そしてその方針にしたがつて、政治も経済も教育もすべて活動が積極的におこなわれていたと思う。今この「富国強兵」という施政方針が妥当であつたかどうかについて言っているのではないが、とにかく国全体として、一つのハッキリした方向を持っていたということは、事実であろう。そういった国是ともいうべき方針が、いまの日本には明確に打ち出されていないから、政治、経済、教育といった分野でも、統一のあるいは能率的な成果があらわれないのではないかとも思われるのである。「人づくり」の方針が明確に打ち出されなければ、いくら「人づくり」を叫んだところで、そこに一つの具体的な成果を生み出すわけにはいかないのではなからうか。だからここで具体的に人づくりの目標をさだめ、それにしたがって人間としてのあり方を正しく教え、また躰けていかねばならないことは言うまでもないことである。此処にソビエトの「生徒守則」を躰けの一つのサンプルとして次に記して置いたので、ご参考に一読願いたい。教師を敬い、父母にしたがい、また社会を愛するなどということは、古今東西を通じて、主義思想をこえてどの国でも一様におこなわれていることから、人間として共通のいわゆる人間的躰けが考えられるのではないかと思う。だから人間的躰けとは古いとか、新しいとか、あるいはどこの国民だから特に必要なものと言うのではなく、アメリカ人であろうと、ロシア人であろうと、日本人であろうと、一人の人間として共通に身につけていなければならぬ生活態度なのである。そういう意味から、これはいはゆる人間性を正しく伸ばすためにあるものと思うのである。適切な例ではないかもしれないが、人間的躰けとは、いわば苗木を支える副木のようなものではないだろうか。苗木が自力でまっすぐに立つておられない間は必要なものである

が、しかしやがて雨風に遭つても自力で立つことができるようになれば自然と副木はいらなくなる。人間的躰けとはそういうものではないかと思うのである。たとえいかなる偉人であつても子供の間はこの副木を必要としたのである。その副木に助けられて一定の期間方向づけられ、それにもとづいて自分の持味を充分に發揮することができたのであろう。人間だれしも人間的躰けを正しく受けねばならないのであり、先輩からいろいろと教えられ、躰けられてはじめて、その社会において有益な人物になり得ると思うのである。

民主主義は自由放任主義ではない。むしろ自由、平等、博愛、といった精神も、子供のときからのきびしい人間的躰けを通じて体得されるものと思う。だから人間的躰けの実践はいわば「人づくり」の基盤なのである。

(参考資料)

- 1 教養と文化を身につけた市民になり、できるだけ祖国の有用な人物になるために、しっかりと伝統的に知識を習得すること。
- 2 熱心に学び、きちんと授業に出て、学校の授業開始に遅れないこと。
- 3 校長および教師の命令には、ただちに従うこと。
- 4 必要な教科書と筆記用具をもって登校すること。
- 5 教師が来るまでに、授業に必要なものを準備すること。
- 6 学校の中ではきれいに髪をとかし、さっぱりした身なりをすること。
- 7 教室の自分の座席をいつもきれいにきちんとしておくこと。
- 8 ベルが鳴ったら、ただちに教室に入つて、自分の席につき、授業中は教師の許可を得て席を離れること。
- 9 授業中はまっすぐに坐つて、教師の説明と生徒たちの答えを注意深く聞くこと。おしやべりをしたり、授業と関係のないことをしてはいけない。
- 10 校長あるいは教師が教室に入ってきた

り、教室から出ていくときには起立すること。

11 教師に答えを言う時には、まっすぐ立ち上り許しが出るまで坐つてはいけない。何か質問をし、あるいは質問に答えようとする時には手をあげなければならない。

12 日記帳、また練習帳に宿題を注意深く書き写しそれを父母に見せること。宿題は全部自分でやること。

13 校長と教師には敬意を払うこと。道で校長や教師に出会つた時には、礼儀正しいおじぎをして挨拶をすること。この際男子は帽子をとること。

14 年上の者には尊敬を払うこと。学校内路上および公共の場所では、節度をもち、しかも礼儀に適うようにふるまうこと。

15 卑欲な言葉を使わず、喫煙やかけごをしないこと。

16 学校の公共所有物を大事にすること。自分の所有物と友人の所有物を大事にすること。

17 老人、幼い子どもたち、気の弱い者、あるいは病弱な者には心をつかい鄭重にすること。彼らに道をゆずり、自分の座席をゆずつて、何かにつけて手助けになること。

18 父母に従い、父母の手助けをし、幼い弟妹の世話をする。

19 自分の家の部屋をいつも清潔にし、衣服、靴、そしてベットをきちんと整頓しておくこと。

20 自分の学校手帳を充分大切にし、いつも身につけて持っていること。

21 自分の学校と自分の学校の名譽、自分の身の名譽を大事にするように注意すること。

以上の規則を破つた生徒は退学に及ぶ罰を負う。よつて「人づくり」はお互に定められたきまり、約束、規約、法規等はこれを家庭にまたは職場に於て忠実に守り、実践し得てこそ初めてその成果が達せられるものと確信するものであります。

(3回卒・常任理事)

拝啓 藤田学長様



荒牧博之

ご清祥のことと拝します。知事選などの統一選挙もすんで、ただいまはほっとしているところですが、大阪の方はいかがだつたでしょうか。選挙といえば、通産大臣の菅野先生も福岡の方にお見えになり、仕事でちよつとお会いましたでしたが、それについても学校のことは懐しいものです。

激動する世界のなかにあつて、ふつと数十年まえの、経大のなかの自身を思うのですが、人生とか社会とかいうものは、なかなかむつかしいですね。怠惰な私は、おそろしく死ぬまで、それがなんであるか、みきわめることはできないであります。人間を学ぶための学生生活というものを、あらためて、かんがえてみたいと思うのです。

ところで、いまの学生は幸せなのか、不幸せなのか分らないのですが、どちらかというところ、あまり幸せではないような気がします。というのは、生活にいうところの個性や思想が乏しい。数百年も入る講堂のような教室で、マイクとスピーカーで、講義をうけても、ラジオやテレビの教育講座みたいで、まことに佻しいかぎりです。

学長先生がいつも、おっしゃっているように、融和の精神をもとにした。進取的で自由な研究、そして個性豊かな人づくりも、なかなかたいへんであらうと拝察いたします。自由で民主的な学風をつらぬくには、いったいどうしたらいいか。これは経大だけではなく、そのような考え方については、どこの社会でもいなく悩んであらうと思うのです。

が、ただこのようなことを、私はかんがえてみたいのです。

かんがえたといひますのは、非常に結論的でない方ですが、個性豊かな、ほんとうの知識人やすぐれた社会人をつくるには、大学の施設や事務的組織を、ととのえることも大切なことですが、それと同時に、教育というもの、やはり人だと思ふのです。

すぐれた思想、純粋な力ある生き方、愛にみちた人間性……たとえそれが理想像であるにしても、そのような人を、どこまでも私たちは追求したいと思ふのです。

教育がなんであるか、私も素人には分るすべもありませんが、偉大な教育は偉大な人から生れてくると、あえてかく考へてみるのですが、まちがいでしょうか。

そのような意味で、個性豊かな人づくりは、ワクやカタにはまった官学よりも、民主的で自由な私学の方こそ、そのような人材が輩出すると思ふのです。たいへん失礼なことをお手紙しましたが、大阪経大といえば、学長先生がおっしゃる通りに、個性豊かな人づくりの大学という認識を、もつとつと社会に与えてほしいと思ふのです。

(6回卒・九州支部長・西日本新聞社編集局特信部次長)

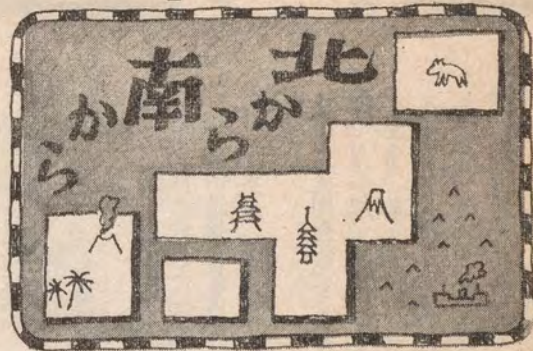
■同窓会名簿が出来ます

—お申し込みのまだの方は至急事務局へ—

■遅れておりました同窓会名簿が8月末頃出来あがります。

昨年の同窓会総会の時、あるいは今回の調査書書きでお申し込みの方には、順次郵送致します。ただ、お申し込みだけで現金をまだお収めねがっていない方々には現金到着をまってお送りいたしますのでご了承下さい。

なお、定価は1部500円です。



ト ケ 集
ア ン ケ 信
短

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿により無さく抽出で選んだ方々です。

といっても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①瀬江についてのご意見、②同窓会についての意見、③はあなたの現況をお知らせください、ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。

もとより、同窓会会員は全国各地、北は北海道から南は九州鹿児島にいたるまであって、それぞれに活躍中ですが、これはその近況です。

(過日の連絡不備の為)

第四回 西川 英明
色々とお苦勞の程お察しすると共にお礼を申し上げます。

病弱な私は、開病生活が永く一切の方とお目にかかる機会がありませんでしたが、軀も最近ではよくなりこれから何かとお世話をおかけ致しますがよろしく、先は近況と御返事まで。

拙作
一山の一家に咲けり白き梅 青杜子

第四回 富田 重雄

通商産業大臣菅野和太郎先生の近況
菅野先生が、このたび、二度目の大臣通産大臣のご榮職にご就任になったことは、大阪経大関係者にとって大きな喜びであり、衷心ご祝詞申し上げます。

とき恰も、国民の政治に対する不信感が黒い霧となつていたときでもあり、また政治即経済、経済即政治といわれる時代に、先生のようなケレイな姿勢の、しかも経済政策に長じた政治家を内閣に迎えたことは、大きな意味があったことを信じます。

ご承知のとおり、先生は、関西財界の要望もたがたく、昭和十七年衆議院に出馬せられて以来、既に当選七回、この間、昭和三十三年自民党大阪府支部連合会々長、次いで翌三十四年国務大臣・経済企画庁長官、三十八年自民党総務等々と党および内閣の要職を歴任せられた。特に、経済企画庁長官(岸内閣)ご就任

うと母校の充実も膚に感じられ、自分達の頭を振返って感慨無量であった。

翌朝グリルに集った諸君に出あったが折角の機会として教授の講義と私のくだけて語り激励の言葉としたがうれしさのあまりまともらしい事がしゃべれなかった。

私は心の中で在学の頃から今日までのフィルムを急回転一巡しているの一人で感激興奮していたのである。

さぞかし要な先輩と思つたであらう。せめてこの一文がその折の後輩諸君の眼にとまれば幸甚である。

拙筆しようとしていた菅野先生から第二次佐藤内閣の通産大臣就任のご挨拶の葉書が到着した。

私はあたりを見廻してドウダと言いたかった。

年度替りのことと恰度来月中旬に娘を嫁せるので準備に忙殺されて、原稿を書く暇がなかった。

杜撰でお恥かしいですが、思いつく日頃の考えをのべてみた。

第四回 山辺 富己生

一、編集部の方々に敬意を表します。
御手数ですが今後の発展のために御世話をよろしく御願ひします。

一、便乗して恐縮ですが、住所連絡について

〇本人居住所三重県津市大谷町二の八一
六〇
〇勤務先 三重県津市洪見町字小谷

第八回 前浦 正宣

京都の東北灘江に
望み高く聳り立つ
産業日本を双肩に
担ふ進む若人の
心の糧の広野原

私はこの学生歌らしい校歌のリズムに酔ふ時恩師黒正先生をすぐ思い出す。バケツリレーをやる位なら一機でも役に立つ飛行機を科学戦の必要を説かれていた気概の恩師を私は飛行機の生産に関係している今迄々と思ひ出す。当時から一風変った民主校長であったように思う。

四大節に於ける式辭の短いこと、私の若い頃は校長先生の妙なところに感心したものである。美辭麗句紋切型の長詞を長々と讀み上げて頭を下げていた生徒にシビレを切らせることが得意だった住時の各校長を思うと黒正博士は当時から既に今日を予見されておられたのであろうか。講義は慢談であったが、それは学園とは勉強心を起させること何れを学ぶべきかを教めることという主旨から出ていたものだったのである。慢談の中に時折折詰深い先生の著書の片鱗が飛び出すのを私は合併教室の最前列で聞きはれていた事を思い出す。

次に先生として忘れられないのは藤原先生である。一年から三年まで私は奇しくも先生の担任の組に入った。戦死した三宅君が総代私が副総代であった。久留米の第一陸軍予備士官学校区隊長として当時生徒兵として入校していた大阪出身(昭和商高)の親友が、私が気の荒い熊本師団派遣の第一中隊の区隊長なので、恐がって、予備士官中の昭和商高に集會案内に来てくれたかったという一幕もあった。その時語ったのは横山先生(信貴山)の思出話であった。三宅君井田君野球の島田君、私と一緒にやった総代の伊勢知君等々今から考えると惜しい大器ばかりであった。刑死の最後まで戦犯獄舎の中で足枷をひきずりながらも尚英語の辞引を離さなかったと新聞に報じられた三組総代の豊君、平素女を思わすおとなしい人であったことを思うと、戦

第一回 大坪 光雄
母校を去りはじめての便りです。顧みれば今から三十二年前まるで浦島太郎の様な心境で何から言つてよいやら分りません。国破れて山河在り、海外雄飛の破れ傷心の身で故国にたえり再出航して茲に二十一年、復興から発展へ、苦しかった幾星霜いろいろの面でも立直り、今郷里に近い田舎の駅長をしております。恩恵は母校に縁がありませんでしたが三人をそれぞれ大学にやりホツとした処です。母校の発展振りを聞いてよるこび遠い九州の田舎で當時を偲び一人で感慨にふける事もあります。ラクビー部の記事は殊になつかしい。故佐伯教授を中心に小生、故豊田、山口の諸兄と力をあわせて育てあげたラクビー部でありますゆえ、グラウンドで若い血をおどらせた日の事を思い出します。高専大会の大阪市選で天理外語に二十何対三で破れた事もまだ記憶にあります。何時の日か瑞光原頭立ち別れた同窓の友と大声をあげて叫んでみたいと思ふ事があります。では母校の発展を祈りながら擲筆します。

第二回 藤本 美則

このごろの交通麻痺に出合うたびに三

中参画された経済政策のご立案は、その後の池田高度成長政策の基礎となり、今日のわが国力の大をなす所以ともなった功績は、知る人ぞ知るであります。

先月、早朝先生の大任ご就任のお祝を申し上げるため、先生をプリンスホテルにお訪ねしました。そして、会議前のご多忙な暫くを、心おきなく四方山話をしたわけでありましたが、その大部分は、母校大阪経大のことであり、また政治家としての先生のご生活の断面でありました。

先生は非常にご元気で、前回企画庁長官時代お会いしたときは、お顔に多少浮腫があるようにお見受けし、仕事の上で医学に關係をもつていたものといふものの、私の素人診断でも、ご健康すぐれなように思われ、心ひそかに案じ申し上げておりましたが、果せるかな、間もなく肝臓のため一時入院加療を余儀なくされました。

ご回復後は専ら、特に、お体にご注意されておられ、現在の毎日のご生活も、朝五時起床、夜九時就床、また政治家につきものの宴会等の如きも、一切お断りして節制しておられる様子でありました。先生は、昨年四月勲一等瑞宝章叙勲の栄に浴されましたが、いうまでもなく勲一等というのは、わが国最高の勲章で、これを受けるには、生前では七十才以上であることが条件となっておりますので、敍勲の話が出たとき、佐藤総理に「一年が分るから、生存者敍勲を辞退しようか」といって、総理をあててさせた一幕もあつたようであります。

お目にかかったところ、全く七二才のお年には見えないお若さで、一見六十才前とお見受けしました。若さを保つ秘訣はときかれば、先生は「それには良薬がある。怒らない、あせらない、くよくよしない。この三つを用いさえすれば、いつでも若い。」とお答えになるといふ。先生はまた職務のうちにも、よく読書をされてられるようで、大臣室の書棚には書籍が一杯つまつていた。また、先生のカバンの中には、若い作家の小説なども、は入っているということです。勿論、こうした新しいものまで読んでおら

れることは、政治家として、これからのわが国の動向をきめる若年層の心理を知るためでありましようが、三木、桜内各通産大臣の下で勤めてきた秘書官も、先生のご勉強ぶりに敬服しておりました。教育家から転じた先生の政治家としての一貫した目的は、政界の浄化であるようです。身を清潔で貫きとおしたかのインドの故シャストリ首相は、先生の一つの理想像と承っております。わたくしどもは、先生が教育家的政治家として、いつまでもご元気で、政界における塩の役目を果たしていただきたく、切にご健闘を祈る次第であります。

なお、大臣ご就任のお祝を、都内外在住の同窓生で開催すべく、先生のご同意も得ておりますが、近く実現する見込で計画しております

(東京生化学研究所事務長)

第六回 内田 甫

一、福井鉄道(株)本社勤務、総務課長
二、同窓会々員への緊密なる連絡の徹底
三、簡単な連絡機関の設置、情報等の交換
四、県内出身者は出来得れば県内会社就職の上、母校の発展と併せ、郷土社会の育成と郷土地域向上のために活躍して欲しい。

以上

第七回 赤木 孝

従米どうりにて可
特記すべきことありません。

第七回 高鳥 良一

雑観、高校では商業科と普通科の就職コースで簿記と会計の授業を担当しているので、直接に大学進学への補習授業などに關係がなく、従って生徒達より大学への進学を相談を受けることに稀なので、大阪経大の学校事情を説明するようなことは多くはありません。しかし私の学校より毎年数名の卒業生が大阪経大に進学してくれているのを非常に嬉しくながめております。今年も二十一名の多数が受験し

第九回 田中基展

久しぶりに番が回り、晴天のへきれきの思いで、思い出すままにゴクカンタンにかきしるしてゆきます。これがカンタンか。そう。そう。十年一日が二十年一日の今日ですから……

戦争にかり出されるために卒業してから、早や三十年がすぎました。共に苦しんだ先生も今は大北、浅沼、梅田、奥村先生位でしょうか。寺尾、建林、近藤、河野先生は他の所で、久野先生とは何らかの機会に泊めてもらって昔語りをします。黒正校長、石川先生はなく惜しいことです。菅野先生はトンダ方向へ行かれた活躍。戦時中は女子大学とかわり途惑ったりニヤニヤしたり。イヤ若かったのです。同窓会や家庭のニュースやの案内はいただきますが、一向に御沙汰の極みで恐縮の次第で何時かはでたいと思っています。

第九回 藤原勇三

卒業して以来二十五年間母校を一度も訪問したことがない不誠実な卒業生の一入です。最近娘の大学入試の関係で旺文社の大学紹介号をめぐってあります。母校の立派な図書館と学園風景の写真が目に付きまして。二十五年前、黒正博士の建学の精神にもえていた昭和・高商時代の若き母校から成長した姿を見て、一層感慨深く覚えました。昔の牛がのんびりと草をはみ、クローバーの上でねころんだ田園の中にあった母校と近代化され、マンモス化された今の母校を比較して、自分の年令と人生を今さらながら考えさせられました。

第八回 谷川徳五郎

(一) 昭和三十年以降東北地方仙台市に居住していましたが、三十九年松下電器本社人事課勤務、今の所に建築、以来ずっと元気に活躍毎日自家用車で通っております。

(二) 現在幹事の方の御苦勞に感謝致します。今後は少し緊密な連絡方法を御願します。

(三) 吾々大東亜戦争中に卒業した者は、現在の所全般に連絡その他同窓の近況等余り密ではありませんが特に限られた二、三名と常に連絡をとっています。

(四) 国破れて山河在りというが正に然り終戦後二十幾星霜国土計画の構想推移と共に、日本も変わったものだと思ふ。

第十回 加藤正秋

先日会社で二十年の勤続表彰を受けました。卒業してからもうそんなに……という感慨と、柄にもなく飛び込んだジャーナリズムの世界で、きょうまでよく持ちこたえたものだ複雑な気持ちです。

戦時中のあの地味な学生生活と、黒正先生の「ガンバリズム」が、心のどこかで大きな支えになっていたことと感謝しております。東海地方の同窓生、とりわけ第十回卒業生は官庁、公庫、銀行の課長、支所長、会計士、個人の会社社長とまことに多士済々。毎年の同窓会を楽しみにしております。

第十回 竹内三郎

「瀬江」毎々興味深く読ませて頂いております。多忙の中を二冊にまとめられる編集の方々に感謝申し上げます。小社にも後輩がポツポツ増えはじめ心強く思っております。小生の採用方針が縁故を主とするなどあらぬ噂を立てられて閉口しておりますが、決してそんなことはありませんから在学中の皆さんも心おきなくご応募下さるよう。最後に同期の皆さんの益々のご健闘を御祈り申し上げます。

第十一回 小西淳介

何名に達しているか知りませんが多数の同窓生中からアト・ランダムで私にこのハガキが来たことは今までに経験のないことで、今年はツイてるのかとも……毎日大阪城のま下の大手前の合同庁舎へ往復五時間余を費して通勤してありますが浮草の如き身とて、いつまでつづくか分かりません。従来からの筆無精なつかしい諸先輩、同窓の諸兄に一す一筆かくだけだと思うばかりで随分御無沙汰もし失礼をしていることを紙上を借りてお詫言します。

戦時中、私のあと一期で一応男子学生が最後で美術部（絵画班となる）も終止符をうつた形です。当時の班のこまごま

北から南から

第十回 近藤和文

母校同窓会も年々オチオチその内容も充実し、母校の躍進と相まってまさに車の両輪の如くに感じています。これほどに本校関係者ならびに同窓会世話人ご一同のご尽力の賜と深く感謝いたしております。

さてこの稿をおかりし、それに劣らずより親密な連絡を保つ活動をしている本校柔道部とOB会の現況について簡単に報告させていただきます。

柔道部OB会は、昭和二十八年に正式発足し、初代会長に清水忠文先輩（五回生）が就任、三十六年に微力ながら小生ご推ばんにより会長をつとめさせて頂いております。

現在会員は旧昭和・高商ならびに本校柔道部の卒業生を中心に百数十名の多きに達し、会員相互の融和と親睦をはかり、母校柔道部の発展を助長し、あわせて母校の隆盛と我が国柔道の進歩に貢献することを会運営の基本目的とし活動いたしております。

会員各位のご自覚とご熱意のおかげをもち今日では他校ならびに関係者から、OB会全体がよくまとまっておりますこと熱心に活動している事で羨望される状態です。

一方柔道部も昨年度には学校当局のご厚意により専用の道場もでき部長 入江 正先生（本校講師）師範 西岡 弘先生（府警本部師範）監督 萩原 市郎先生（十回生）を中心に、講道館精神である「精力善用」「自他共栄」の基本理念を体し、日夜血のかよった練習をつみ、関西の大学柔道界では今やAクラスにランクされております。

終りにわれわれ柔道部OB会も今後より一層母校の隆盛と柔道部の発展のために総力をあげて頑張る所存であります故同窓会先輩各位にもよろしくご指導ご支援のほどお願い申し上げます。ともに同窓会の今後のご発展を期待申し上げま

れ、紹介状も一面識もない私の依頼を気持ちよく下り下さり、講演にきて下さったのですが、権威や格式がもの言う世間で、純粹に話の中身だけで拒否を即決される態度は、やはり学者らしい気持がなかつたと感じました。その後四回、いつもわたりやうい言葉で懇切に経済の解説をして下さいました。そのすてきな美濃部氏を今日知事に選べたのです。

アルジェの国民がたぐさんの血の犠牲によって民主主義をかちえた苦勞は杜絶にしてりつぱだつたと思いますが、選挙戦で一步一歩民主的な都市に、国家に変えてゆこうとする私たちの努力も、決して劣るものではないと思ひます。

同じ頃、アメリカではキング牧師を先頭に、四十万人のベトナム戦争反対のデモがあつたと聞き、やはり良識は世界のどこかに生きていて、のだと意を強くしました。革新陣営の人たちも、味方の中に敵を探したりせず、今度の共同で得た貴い勝利の経験は今後に生かし、味方を拡大するといふ本来のあり方をとりもどしてくれらうと願ひます。

ともかく、学者が政治に口を出さねばならぬときは、いつも民主主義は曲り角にさしかかっているときです。安保闘争のときもそうでした。久野先生がミコンをあげ、コブシを振り出されたら、これはもうじつとしてはおられぬときなのですから。まだまだ、これからが大変ですが、この輝やかしい歴史的できごとを、ともに喜んでいただきたく、筆たらずながら一筆送らせていただきました。

第十四回 山田成子

大学も益々御発展の由心からお喜び申し上げます。校舎も見違えるばかりと聞いておりますが総会にも心ならずも出席出来ず今年こそはと楽しみにしておりました。私共のグループでは毎年新年宴を開き夫妻子供同伴にて顔を合せております。今年は羽衣新東洋にて、年々子供は増え、大きくなるに比例して親も年を重ねるのに、オヤジ共年に一度の逢瀬を楽しみお湯にのぼせ、酒をくみかわし、また今尚若き奥様方一年分のおしゃべり

北から南から

した記録も保存してあります現在の大経済の美術関係の活躍は寡聞にしてきませんが、平生学校のニュースにうといからだと思ひます。ご活躍をのります。目下勤務地は大阪、住居は和歌山市どうかお立寄り下さい。

第十二回 中張幹三

①岡山県立玉島高等学校に勤務、職業指導主事、家族七人祖母、母、妻、男児三人、現在校に十九年勤務、玉島高校での教子が五十人以上大に入っており、今年も本校より二十名以上入試に合格した。玉島地区の同窓生が年二回集って地区総会をひらき、昨夏は母校から、梅田、浅沼、浜本の諸先生のご出席をいただいた。

②総会に出席してみて、若い諸君の出席がないのは残念なところかならぬものか？

③近年の急増で、母校の内容が充実してきた事はよろこばしいが、関西の諸大学と異った点昭和・高商時代の特異性も生かしてもらいたい。

第十三回 須田周作

私の学校、私の勤務する学校には先輩、後輩合せて四人いる。皆黒正先生の「ガンバリズム」を体し頑張っている。私は英語他の先生は商業を担当している。学校が大きいので毎顔をあわす事もないが、話せばなにかにつけ心に通ずるものがあり、校務その他のことも協力して成果をあげることが出来る。先日苦話に花が咲いた。黒正先生の経済地理、某教授の商業、英語などの授業、サッカリの西宮の某大学との接戦、などから私達の在学中は戦時中だったのだから新庄で雑食を食べるの一時間もならんだ事、学徒動員のことなども今はなつかしい思い出となって話つきなかつた。私の学校からも母校へ毎年五人位進学する。母校の発展のめざましいのに敬意を表すると共に、私達教員として、母校に誇りを持って生活指導に当たっている。

第十三回 小駒葉子

初の新系系知事当選の栄えある日に「瀬江」にお便りできる喜びをなんと表現しようか。今は知ってる人全部に電話して「オメデトウ」を言い交した気持ちでいっぱいです。

勿論、美濃部氏個人の魅力がいちばん大きな要素だっただけで、久野取先生はじめ多くの学者、作家、評論家、芸能関係の知名人たちの幅広い支援があったからこそ勝った選挙だったと思ひます。仕事の関係で表立った選挙活動のできない私でしたが、今度はやはりはにかじつとしていられなくなつて、終盤、個人で動ける範囲の働きかけを、自分で言うのもおかしいのですが、相当精力的にやりました。ですから十三万票の差をつけて堂々当選と決まったらのうれし

かったこと。保守系の人たちの予想に反し、開票が進むにつれて差は拡がる一方だったからです、そのいい気分といったらありませんでした。

美濃部氏にはじめてお目にかかったのは、昭和三十六年の暮れでした。お宅を訪問すると、和服できさくに玄関に現わ

第九回 青木俊憲

終戦の年に青森県に生まれました。青森市には三十四年に移り、現在の勤務先で商業科目を担当しています。

また「教育相談」の仕事もしています。遠く離れていて同窓の人達とお逢いできないのを淋しく思うときもあります。「瀬江」はなつかしく拝見しています。

第十三回 山崎和子

一、尼崎市武庫庄に転居して二年、まず大過なく暮らしています。相変わらず外出勝ちです。子供が幼稚園に入園しましたので午前中は身体がフリーになりました。電話連絡、御来訪等午前中にどうぞ……。朝寝坊の方は午後十時〜午前一時頃までどうぞ。

二、十三回の皆さん、お互いに同窓会にもつと関心を寄せましょう。

三、十五回の野島さんの新しい住所お知らせします。今後、通知等送ってあげて下さい。神戸市葺合区上筒井町三丁目一六 川条潔司方

四、雑感はどうも文章になり難いので、御容赦下さい。いずれ同窓の会合で、存分にしゃべらせていただきます。

に大わらわ、子供は中居さんにまかせ大いに大人共の楽しむ会となつております。よき友かなと、つくづく思い、また来年を楽しみに別れております。 渋谷（旧高橋）夫妻子供七人、金田（旧高岡）夫妻子供三人、西川とみる夫妻子供二人、奥田芳朗夫妻子供二人、山田（旧田中）夫妻子供二人の五人家族です。

第十四回 田 中 禎 子

雑観、毎年の事ながら就職、新学期、進学の時が到来して参りました。この度は同窓会誌、記載の御依頼を受け、私ながら少々困惑している次第でございます。

戦後二十数年仲々ペンを持つて書く時間もございません。私共のように戦後混乱しておりまして時代に卒業したし、今更のようには思い出して見ても、平和な昨今、想像もつかない学生生活でした。結婚以来主人の転勤について、あちこちの地方都市に住み、二児の母親として子供達の教育に明け暮れの毎日でございます。やれ今日のテストの点、有名校に入らねばならない等々、現在の世相がそういうふうになつてしまつてはいる限り、やはり我が子にもという一類の望みもございいます、でも教育という面においては昔も今も変わりなく質素であり度いと願つております。うららかなこの土地特有の瀬戸の汐風も吹上参上つて参ります。大阪を長年はなれ、仲々同窓会にも出席出来ませず残念に思つております。ただ母校に對しましては誇りと明日への希望を持つて、今日も子供達の教育に家事の雑用にと専念している日々でございます。拙い文ではございますが私なりの今日この頃の感想を書かして頂きました次第でございます。

第十六回 中 村 行 男

私が勤務している（株）藤井商店には我々の卒業生が私を含め十名勤めております。（株）藤井商店といつても殆んどの方は御存知ないと思いますが、昭和二十一年に創業され、（株）神戸製鋼所の指

定間屋として今日まで全国の造船所阿鉄鋼メーカーに溶接棒を一手に納入している商社です。その我が社に経大卒の頑張り屋が昭和三十年あたりから毎年入社して来まして、今では東京出張所々長、広島出張所々長、本店営業課三課長とそれぞれ活躍しています。なにかの機会で一パイやる時など不意に「逍遙歌」をやられて冷汗をかき事があります。井上先生と石井さんには毎年公私共々お世話になり、井上セミの出身者も多いようです。

第十九回 宇佐美 正 彦

一、現況について、過日教職にある経大出身者の会合を持ったが、十五年前の我々の巣立つた頃とは施設、設備において隔世の感がある。学部を増設、学生の増大、充実した講座内容等々、その発展を心から喜ぶものである。ただ「地道で良心的な学風」は結構なことだが、地元大阪での風評はあまりに地道すぎ、その存在すら知らないことを、我々同窓生は痛感するものである。

我々教職にある者は毎年多くの受験生を送り一喜一憂するのであるが紙上で発表される大学合格者の欄に「大阪経済大学合格者」を見出すことが出来ない。「良心的な経営」であればある程、隠せずPRし「良心的な学風」を自負してよいのではないかと考える次第です。二、同窓会に希望する、総会の日時についてであるが、仕事の関係で、クラブ活動の引率や、検定試験の審査など折角開催日を知りながら出席出来ない事がよくある。まことに身勝手な中訳ないが、祝祭日にでも開催してもらえないだろうか、ただし、個人的な理由だから等閑視してもらつて結構です。

三、同窓の友人など、大阪近郊の教職にある仲間達と横の連絡をとるべく、一部名簿の作成を考え、二、三人の協力で原稿的なものが出来たがまだ十分とは云えず、その充実を期して何らかの会を発展させたいと考えている。

第二十四回 武 安 一 明

略、こういうアンケートを実施する場合には実際に「瀬江」（古いものです）を送付すれば良い結果が得られると思ひます。また質問項目一の現況については、何の現況についてか、よくわかりません。再考の要ありと思ひます。

母校同窓会に希望する点については、毎々欠席している関係上、具体的に記する事は無理です。が欠席しているため、こういうことについては要望出来ると思ひます。欠席者のために簡単な議事録を送付してはどうかという点です。どうも失礼します。

第二十四回 穴 田 昭 男

江口の里を巣立つてからも九年たつた。大阪にいながらめつたに母校に出かける事もなく、唯仕事の関係で噂を身にする程度であるが、「大阪経大」の発展を聞く時の嬉しさは又ひとしおである。昨今、私学危機の言葉を聞くたびに、学舎が美しいビルに変わり、学生数が増大

して行く事が大学の発展なのかとつくづく感じている。

「自由と自治」が保障された学園、学生と教職員が一体となった接触、そんな場で営まれる研究と教育。

こんな母校に今後とも発展してほしい。夢はこの上なく楽しい。

第二十四回 今 川 恵 正

前略、同窓会誌「瀬江」をお送り下さいまして有難う御座いました。楽しく拝見させて頂きました。前号よりは一段と立派な会誌になり母校の近況や学校の様子等写真を見て、驚嘆しております。学校を卒業して早くも八年の歳月が過ぎ友達もそれぞれ各界にて活躍しておられることと思ひます。小生卒業当時は都会の生活にあこがれて都落ちはしみたいと思つておりましたが、どうした運命か今では地方の農機具製造メーカーである古川農機具工業株式会社に勤務しております。卒業以来一度も学校を訪れる機会もなくなんと愛校心がないと思われるかも知れませんが決して、そのつもりはなく地方勤めで出張もなく上阪する機会がないためです。上阪する機会が有りましたら、一番に立派になった学校を訪れたいと思つております。小生地方におる者にとつては母校の状況がわかりませんので今後とも「瀬江」は母校の状況は第二号の企画にありました同窓会と先生を結ぶ座談会等も行つて頂き、くわしくのせて頂くようお願い致します。母校の今後の御発展を祈ります。

第二十四回 石 川 敏

拝啓、向暑の御益々御健勝の事とお慶び申し上げます。先日は瀬江御送附頂き有難うございました。母校の発展ぶりを誌上をして拝見しましたが、全く驚くばかりです。我々がよくゼミ対抗の野球をしたりまた運動部の連中が汗を流して練習したグラウンド跡に、立派な校舎が建ち、昔の面影がだんだんなくなりつつあります。しかしそれが未来へ向つて前進発展する姿だ

第十九回 岡 野 伴 一

本年一月十四日高校教員をしている同窓生の会合があり、久しぶりに母校を訪れてます。立派な学舎の立ち並んでいる見事な発展に一驚、母校のいや栄えを折った。同業者ばかり集れば煙草もありません、楽しくもありで、ハッスルする点もあり、他地域の事情にも通じ、有益だと感じた。この集りは母校の企画であったが、一つ同業同窓の会合を同窓会自身で企てられたら如何。専卒の資格で二十七年に就職して以来ずっと同一校勤務、県では十年選手は五年計画で移動さすとかそろそろそろ寒い風が首筋に当りそうな昨今ではある。でも我が勤務校にも昨年より商業科の設置と共に三級下の塩河清一氏が着任され、氏の誠実でファイトある勤務ぶりにすっかり意を強くしている。同窓生が同じ職場にいと云う事は大変心強い限りである。末筆乍ら母校及び先生方のご繁栄と同窓生各位のますますご活躍を切に祈り上げます。

第二十一回 北 川 幸 一

高知市にて（現況）婦人服地、呉服、カネボウ化粧品、小売業を自営。京阪神、四国方面で同業又は問屋の先輩方今後いろいろとご指導下さい。（同窓生へ）軽音楽部の皆さまご気嫌如何ですか、現況お便り下さい。

第二十一回 蒲 原 正 道

前略、私学の経済的窮乏がこ二、三年の話題となり、理事者側対学生側の抗争がクロズアップされていますが、本学に於てはどうだろうか。他の大学に比べて学生の納入金額は低いと思いますが、そのために質の低い学生が入る大学とならない事を願っています。何故なら総合

と思うと本心に頼もしく、喜ばしい事です。今後共益々母校が発展するよう心からお祈り申し上げます。

第二十七回 北 本 義 和

「気がねない空気と時間」時移ること卒業後すでに六年もの時が過ぎたこの頃、俄に上阪する機会がふえ通学当時に苦にもならなかった、大阪の空気の汚れが殊の外にやに感ずるようになった。もつとも其の当時とは較べものにならぬ程随分と増したであろう人口、自動車其の他排気ガスのせいでもあるだろうか……

現在都市構造は毎日に目をみはらす変化であわや戸惑うことすら起りかねない有様、同様に、交通機関も通学当時は要四時間程度であったのが只今相生―大阪二時間少々、なほ山陽新幹線となれば約一時間まことに時間的距離は短縮されそれがまた、確実に施行されている反面絶対欠くべからざる空気浄化にあってはその解消施策の施行、実に貧弱なものに思われる。

従来は只今住んでいる地をまるつきり田舎と考えていたものであるが今日此頃ではなに気兼ねなくいい空気を存分に吸うことが出来まことに幸に思えてならない。

今も勤務している播州竜野という処その点播保川の清流に糸をたれ「人の手前はうつすりみせて蔭でさかせるあの恋の味」竜野うすくち淡醬油……私しや播州素麺育ち見かけ細いがあの味がよい

第二十八回 岩 西 雅 司

どうたいいつ杯を重ねる鮎を口にし春には見事な桜と恵まれた環境でよく自然に接した愛する味わい。友人の云う「子の健康のためには自身のため毎日二時間余り費しても大阪動をしていると」その真意がわかるのである。

拝啓、平素は同窓会発展のためにご活躍

大学をふり切つて経大に入った想い出が残っているから、十年百年の後々のために目先の事例えは異口入学、(そんな事は考えられないが)をすて、就職率をよりよく努力する学生を迎えて下さい。大ヤクシンを祈っています。

第二十三回 宮 田 順 一郎

一、母校に遠い鹿児島での生活ではその後の学校の立派に整備された事など写真その他で教えて頂く程度であり、上阪して尋ねる機会のある事を大いに期待しています。

第二十三回 林 稔

一、現況について 小生現在、公共工事前払金保証事業に従事しております。建設業界以外の方には、馴染が薄いかもわかりませんが、所謂、土建屋さん相手の金融の保証をいたして居ります。万博プームの折柄、これから多忙になるだろうと思つております。二、母校同窓会に希望すること 「瀬江」の御送付ありがとうございます。

第二十三回 林 稔

同誌二号の誌上に、小生らのゼミ担任であった大槻先生が、同窓会に対する意見を開陳されてました。学校と、同窓会のパイプをもつと強固にすべしと。まことその通り。

なお、この記事を拝見して、先生のご意見発表の模様と、十年前のゼミの時間における先生の、いいまわしがダブリ、

第二十九回 浅 野 寿 幸

卒業いたしましたして四年になりますが現在の会社に参りまして半年にしかありませんが、現在生産管理及び検査課のチーフとして頑張つております。先輩の益田様も営業係として活躍されています。また益田ネジ製作所を設立、社長として活躍されております。同窓の人々の御発展をお祈り申し上げます。

第三十回 田 中 哲 夫

我々三十回生は社会人四年生であり、あらゆる面で人生の花であり、竜である。その現れが結婚式であり、月々二、三回の招待状が舞込む。

第三十回 田 中 哲 夫

先般、M君の披露宴で突然指名され何を話していいか困つた。M君とは経大が縁であり、親友も五人居たので、此々城に迎えたるの逍遙歌を合唱した。父親さんのお礼の言葉をいただいたが、実は唄い乍ら、自身にジーンと来たものがあつた。経大はいいな、我々にとつては唯一の大学であり、同窓会が残された唯一のパイプであると思ふ。経済大学共々同窓会の飛躍的發展を期待しています。

第三十一回 奥 井 脩 二

拝啓、卒業以来早や二年の歳月が流れようとしています。愛する母校経大もますます充実し近々学部増設もあるとか大学院も博士課程が間もなく設備される事でしょう。私のように卒業後他大学院に在学

北から南から

すれば経大の良さがよくわかります。上京及び帰省のたびに車中より母校を懐しく拝見させて頂いております。これからもよき経大カラーを持して質的にますます充実されん事を願っております。

今回難多で骨の折れる名簿を私達のために作って下さるようで同窓生の各方面での活躍も知ることができるともあり本当に有難く思っております。お骨折り本当にありがとうございます。これからどうぞよろしくお願い致します。名簿が私方にお届けいただける日を楽しみにしております。ここに重ねてお骨折りに深く感謝するとともに経大のますますの発展を心より祈っております。

拝具

金沢誠方

北から南から

第三十二回 熊井健治
一、私は三菱電機(株)伊丹製作所総務



▽瀬江の発行がまた遅れてしまった、まことに申し訳ない。
▽編集委員会では遅くとも五月末には出したいという事で鋭意取材にあたっていたのだが、手違いばかりが起ってついに発行が七月末にもなってしまった。

▽もとより編集委員会の責任ではあるが、これにはいろいろと事情もあったことをお汲み取りいただきたい。
▽言いわけがましくなつて恐縮だが、第三号の特集記事として予定していた、同窓会と学生諸君との座談会が、新しい自治会の編成が遅れて、ついに四月中旬開催予定が六月上旬まで伸び伸びになってしまったことである。
▽ために、他の記事が相当時期的にずれてしまつて、おかしなものになつてしまつたが、さりとて急に変更も出来ず、そのままおしてしまつた。この点、ありのままを報告して頭を下げる。
▽編集企画そのものについては、当初は学生諸君との座談会を中心にあのころのことは第四回から第八回まで、さらにグラビヤにいても、四十一年度の総会の模様と、いま一つは、現在の学生生活を、そのまま、カメラで追う予定であつたが、写真を借りる筈のアルバム委員会との連絡がとれず、急遽、表紙を飾るつもりであつた入学式の写真と変えた次第、ここにも企画の多少の食い違いはあつた。

▽五人の編集委員、まさにめまぐるしく動いた積りだが、時間に制約があり、なかなか当初の企画、予定通りにはいかなかった。
▽さらに、今回の瀬江編集にあつては名簿の作成ともひっかかつてまさにテンヤワンヤ。
▽名簿そのものも、昨年の十一月には出来ておらねばならないもの、それが町名変更や、電話の局名変更などあつて相当のくろいが出ていたのこの際同窓生の現況を徹底的に調査するという事で、苦勞を重ねて往復葉書きで問合せを行つてみた。
▽同窓生の数もいまや一万人、これだけの同窓生に往復葉書きを出し

部教育第二課に勤めています。私は経大に入学する前から同所に勤めていたわけが、はじめから教育課に勤めていたわけでは有りません。昨年経大を卒業して後に会社の都合により、私の働いていた職場が下請けへ委託になり、その職場の従業員の内下請けに行きたくない者は直接作業の職場へ移ることになりました。しかし私は、教育課へ配属になり、現在訓練生の教育を担当しています。これも経大時代に教員免許を得たからであらうと思つています。

二、母校同窓会に希望することについて私は、同窓の内色々異つた職業についておられ、それぞれ感じている事も異つておられると思いますが同窓会として、アルバイト的な(本職でなく)仕事の幹施をして欲しい。

その返信をもらい、これを整理することは並大抵のものではなかつた。

▽幸い、事務局の人員を増やしていただき、作業も急ピッチで進んだが、それでも相当数の葉書きを整理し、それを写しかえるのにはかなりの日数を要した。

▽ために、印刷所に原稿が回つたのは瀬江とはほとんど同時、整理・校正は、まさに悪戦苦斗の連続だった。

▽それにしても、この編集の仕事並大抵のものではない。
▽これを三十年もやってきた先輩諸氏もあるのである。あらためてその苦勞には頭を下げる。

▽瀬江にしろ、名簿にしろ苦勞を重ねた割には、出来ばえはかんばしいものではなかつたろうがこの辺のところは、忙しさにご同情願つてお許しを乞いたい。
▽一応二年の責任を果して、いまはほんとうに一息入れているところ。

▽反面出来ばえとは別個に瀬江にしろ、名簿にしろまがりなりにも新しいスタイルを考え、これを軌道にのせた、やるべきことはやつた

第三十二回 柳川邦治
拝啓、卒業後もう半年ちよつと過ぎ去りました。大学側でも相変らず多忙な日を送っているものと御推察致します。私の方も職場にも慣れ楽しく勤めております。ところで卒業後間もなく、早速豪華な同窓会誌「瀬江」が届けられ母校が懐しく、また心榮しく読ませていただきました。礼状やら住所変更につき、便りを出そうと思ひながら遅れて申し訳ありません。瀬江につきまじしては、企画及び内容は常識的な線であつたと思ひます。少ない予算で問題が多いでしようが、今後ともより良き同窓会誌「瀬江」の充實を母校の発展と共に期待しております。就きましては今度住所変更につき、今後の連絡は下記住所にお願ひ致します。

と、各編集委員多少自負するところもある。
▽来年からは、また新しい委員会のものと、新しい企画が生まれてくることと思うが、ご健闘を切に祈りたいと思う。

(松本記)

学 歌

作詞 故 秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

逍 遙 歌

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ
希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ
ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

四 瀬 標

世界の商都の 入船出船
水先みちびく 経済実践
前途はるか
氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

(一) 此処城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたゞよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(二) 水やにこれる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(三) 集いの庭を共にせし

我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(四) 虫の音すだく秋来れば

小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然したいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(五) 乱る金剛枯風の

叫ぶ野風粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌いきびしき鞭なれど
懐古樂しや語り草

(六) 霜ふみ通うこの朝

暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいぎないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(七) 小鳥が森に歌うとも

小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時

緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり



大阪経済大学同窓会誌 NO.3